



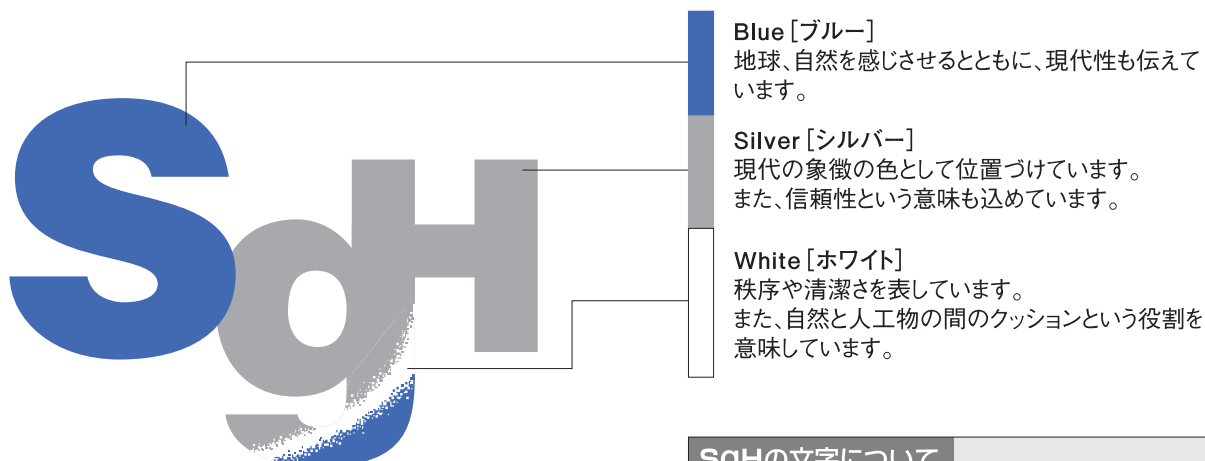
*SG*ホールディングスグループ  
環境・社会報告書  
SUSTAINABILITY REPORT 2007



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

## SGホールディングス社章



### Blue [ブルー]

地球、自然を感じさせるとともに、現代性も伝えています。

### Silver [シルバー]

現代の象徴の色として位置づけています。また、信頼性という意味も込めています。

### White [ホワイト]

秩序や清潔さを表しています。また、自然と人工物の間のクッションという役割を意味しています。

- 「スピード感、信頼感、メジャー感」の獲得を目指しています。
- 現在の佐川急便のイメージデザインであるギャラクシーデザインを「g」に配し、3つのアルファベットの組み合わせを個性あるものにしました。

### sgHの文字について

**S**=SAGAWA  
**g**=SAGAWA  
**G**LOBAL  
**G**ALAXY  
**G**ROUP  
**H**=HOLDINGS

## 編集方針と報告範囲

### ■ 編集方針

1. 多くのステークホルダーにお読みいただけるよう、わかりやすい表現を心がけ、簡潔、明瞭に説明しています。
2. 環境省の「環境報告書ガイドライン2003年度版」を参考にしています。
3. 実績データは2006年度のものを集計しています。  
(活動内容については一部2007年度の内容も含まれます)
4. 取り組みの状況により、年間実績数値で報告できないものは、対象期間を明示しています。
5. 外部審査機関による第三者保証を受けています。

### ■ 報告対象期間

2006年3月21日～2007年3月20日

### ■ 報告対象組織

佐川急便の活動実績を中心に、SGホールディングスグループ企業と財団法人の活動を掲載しています。

### ■ その他情報提供手段

本報告書は、SGホールディングスWebサイトからもダウンロードいただけます。  
(<http://www.sg-hldgs.co.jp/>)  
Webサイトでは、英語版(簡易版)もご覧いただけます。  
(2007年8月公開予定)

## 表紙デザインについて

SGホールディングスグループ統一のスローガンでもある「安全、環境、サービス」をイメージし、写真の上段にはハード面の取り組み、下段にはソフト面の取り組みをレイアウトしました。グループとしての方針を示すと同時に、持続可能な社会の実現に向けた決意を表現しています。



# Sustainability Report 2007

## 目次

トップメッセージ	2
SGホールディングスグループについて	4
SGホールディングスグループ国内事業体制	6
アジアでの事業展開	8
経営ビジョン	9
SGホールディングスグループのCSR体制	10
<b>特集 佐川急便 創業50年のあゆみ</b>	13
<b>安全活動報告</b>	19
「安全」を支える体制づくり	
「プロ」ドライバーの育成	
エコ安全ドライブの取り組み	
車両対策による安全への取り組み	
子どもたちの安全を守る	
安全な社会を目指して	
<b>環境活動報告</b>	29
環境負荷低減に向けて	
地球温暖化防止・大気汚染防止への取り組み	
輸送の効率化による環境対策	
車両に対する環境配慮	
施設における環境配慮	
循環型社会を目指して	
その他の環境配慮	
SGホールディングスグループ環境行動	
自然との共生	
環境啓発への取り組み	
環境活動を推進するための体制づくり	
<b>社会とのかかわり</b>	47
従業員とともに	
お客さまに向けて	
地域社会とともに	
2006年度のあしあと	59
2006年度 各地の取り組み	60
第三者報告書(クライメート・セイバーズ・プログラム)	
第三者コメント	

# 「本業に沿ったCSR」への取り組みが 物流事業者の使命

SGホールディングスグループは、社会・自然との共生を図り、  
すべての人々から選ばれる企業グループを目指します。

時代は変われど、受け継がれる「創業の理念」「飛脚の精神(こころ)」を胸に、  
『今、新たな時代へ——』

## 温故知新

SGホールディングスグループの中核を担う  
佐川急便株式会社は、1957年(昭和32年)3月、創  
業者の佐川清がお客さまからお預かりした1個  
のお荷物より、運送事業者として歩み出しました。  
それから多くのステークホルダーの皆さまに支  
えられ、今年で創業50周年を迎えることができ  
ました。この間、私どもは「迅速・確実・丁寧」をモ  
ットーに、「顧客第一主義に徹する」、「地域社会の  
発展に奉仕する」、「責任と誠意を使命とする」を  
社是とし、社業に邁進して参りました。

しかしながらその過程では、社是とは程遠い  
反社会的事件を起こし、社会や地域と共生する  
などとは言えない企業であったことも事実であ  
ります。その事実を真摯に受け止め、大いに反省  
し、二度と皆さまの信頼を裏切ることなく、そし  
て「すべての皆さまに選んでいただける」企業に  
なろうと変革に取り組んできました。

## 新たな事業体制・ビジョン

2006年3月にSGホールディングス株式会  
社を設立し、持株会社体制に移行しました。従来は  
佐川急便がグループのリーダーとして、自社の  
事業展開とともにグループ経営の戦略策定と管  
理機能を担っていましたが、急速に変化する市  
場環境や、多様化するお客さまのニーズに迅速  
に対応していくため、宅配便事業以外の事業拡  
大を含めた包括的な成長戦略の策定、事業ポ  
ートフォリオの適時・的確な組織、さらには横断的  
なグループ戦略を実行できる体制の確立を目指  
し、持株体制へ移行した次第であります。

本年度より中期経営計画「SgH First Stage Plan」  
をスタートさせました。これは、10年を3つの期  
間に分け、「グループ各社が、それぞれの事業基  
盤を築き、新たな価値を創出する」ことを経営ビ  
ジョンに掲げ、事業に邁進するものであります。  
今年がそのスタートの年であり、10年後のある  
べき姿に向けた第一歩を踏み出しました。



## CSRへの取り組み

当グループの中心的事業は「物流」です。その物流業において、私どもは「社会インフラの一翼を担っている」との自覚があります。もし、このインフラが崩壊すれば、多くの方々の生活に支障をきたし、社会構造そのものを揺るがしかねません。私たちはその責任をしっかりと果たし、さらに本業である「お荷物を運ばせていただくサービスを通じて社会貢献をさせていただきたい」と考えており、まさにこの考えが当グループのCSRの根幹であります。

物流業はその業務特性上、公道を利用し、多くの車両を使用します。その結果、少なからず交通安全に対するリスクを発生させ、さらに環境負荷を与えています。安全が確保され、環境負荷を軽減して初めて本業である事業が行えることから、「安全と環境」が当グループのCSRの根幹を担保とする重要な取り組みであると捉えております。

私どもは、この50年間支えていただいた多くのステークホルダーの皆さまに感謝するとともに、コンプライアンス経営の徹底と、安全・環境への取り組みを中心としたCSR活動を展開し、事業活動による利益は地域や文化の発展のために社会へ還元していきたいと考えています。そしてこの考えを事業経営の中に浸透させ、すべての社員が実行することで、社会との共生、自然との共生を図りながら、今後も継続的に発展していける企業になりたいと願っております。

2007年6月  
SGホールディングス株式会社  
代表取締役会長兼社長

栗和田 榮一



# SGホールディングスグループについて

SGホールディングスグループ全従業員は、良き企業市民として創業の理念に基づき、良識と責任を持って行動しています。

## SGホールディングスグループ企業理念

SGホールディングスは、グループの持続的な発展を目指し、良き企業市民として創業の理念に基づいた企業活動・行動を実践します。

企業として果たすべき責任の自覚と、従業員一人ひとりの

行動を通して社会に貢献することを目的とした「SGホールディングス行動憲章」を制定し、社会や自然との共生を図りつつ、『すべての人々から選ばれる』企業グループを目指していきます。

### 創業の理念

SGホールディングスグループは、佐川急便の創業の原点である「飛脚の精神(こころ)」を継承し、人権を尊重し法令および、その精神を遵守するとともに公正且つ自由な企業活動を行います。

「飛脚の精神(こころ)」とは「迅速・確実・丁寧」をモットーに、

- 一、顧客第一主義に徹する
- 一、地域社会の発展に奉仕する
- 一、責任と誠意を使命とする

### SGホールディングス行動憲章 ～社会の信頼と共感を得るために～

#### (責任規定)

経営者は、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、グループ企業をはじめとする関係者に周知徹底させ、実効のある社内体制の整備を行うとともに、企業倫理の徹底を図ります。また、本憲章に反する事態が発生したときには、自らが問題解決にあたる姿勢を内外に表明し、原因究明、再発防止に努めます。

#### (共同宣言)

SGホールディングスグループの全ての経営者および社員は、いかなるときでも一致団結して次の原則を実践するために、責任をもって行動します。

#### (行動原則)

1.社会的に有用なサービス・製品を安全性や個人情報・顧客情報の保護に十分配慮して開発、提供し、消費者・顧客の満足と信頼を獲得する。

- 2.公正、透明、自由な競争ならびに適正な取引を行う。また、政治、行政との健全かつ正常な関係を保つ。
- 3.株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示する。
- 4.環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存在と活動に必須の要件であることを認識し、自主的、積極的に行動する。
- 5.「良き企業市民」として、積極的に社会貢献活動を行う。
- 6.従業員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい環境を確保し、ゆとりと豊かさを実現する。
- 7.市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは断固として対決する。
- 8.国際的な事業活動においては、国際ルールやその国の法律の遵守はもとより、文化や慣習を尊重し、その地域の発展に貢献する経営を行う。

## SGホールディングスグループ統一スローガン

**安全 環境 そしてサービス**  
すべての品質を世界標準へ。

## SGホールディングスグループ体制

### SGホールディングス株式会社 会社概要

SGホールディングス株式会社は、佐川急便株式会社をはじめとするグループの純粋持株会社として設立しました。

SGホールディングスは、グループ全体の「経営戦略策定・管理機能」を有し、各事業会社は、「業務執行機能」に特化する体制を整えました。この経営体制により、日々変化する社会からの要求に対し、意思決定のスピードを高めると同時に、グループの総合力を発揮することを可能にしました。

商号	SGホールディングス株式会社 (SG HOLDINGS CO.,LTD.)
設立日	2006年3月21日
事業内容	グループ経営戦略策定・管理並びにそれらに付帯する事業
所在地	京都市南区上鳥羽角田町68番地
代表者	栗和田 榮一
資本金	112億7,500万円
決算期	3月20日

### SGホールディングスグループ法人・団体

#### グループ国内法人

##### 事業会社

佐川急便株式会社  
佐川引越センター株式会社  
ギャラクシーエアラインズ株式会社  
佐川グローバルロジスティクス株式会社  
佐川フィナンシャル株式会社  
佐川アドバンス株式会社  
佐川ギャラクシーモーターズ株式会社  
佐川コンピューター・システム株式会社  
株式会社ヌーヴェルゴルフ倶楽部  
ロジスティクス・クオリティ・レジスター・インク  
佐川林業株式会社

##### 財団法人

財団法人佐川留学生奨学会  
財団法人佐川国際経済協力会  
財団法人佐川がん研究助成振興財団  
財団法人佐川美術館

##### 外郭団体

SGホールディングスグループ健康保険組合  
SGホールディングスグループ企業年金基金

#### グループ海外法人

佐川急便アジア株式会社  
北京住商佐川急便物流有限公司  
天津保利佐川国際貿易有限公司  
上海保利佐川物流有限公司  
上海大衆佐川急便物流有限公司  
保利佐川物流有限公司  
佐川急便(香港)有限公司  
台湾佐川急便国際股份有限公司  
佐川急便インドネシア株式会社  
佐川急便フィリピン株式会社  
佐川急便ベトナム  
佐川急便コリア株式会社  
佐川急便シンガポール株式会社  
佐川急便タイ・コンテナ・ディストリビューション・サービス株式会社  
佐川急便マレーシア株式会社  
佐川急便ハワイ株式会社

グループの総合力およびシナジー効果を最大限に発揮できる事業体制により、「すべての人々に選ばれる企業グループ」を目指しています。





# SGホールディングスグループ国内事業体制

佐川急便をはじめとする国内事業体制により、お客さまに安心と信頼をお届けします。

## 国内事業会社の事業概要

### 佐川急便

佐川急便は、SGホールディングスグループの中核会社として、宅配便事業の強化・拡大に加え、グループ各社と連携し、物流のトータルソリューションを提供しています。1日の荷物取扱個数は、通常期で約450万個、繁忙期になると600万個を超える膨大な荷物を迅速・確実・丁寧に運んでいます。

また、地球環境に直接的な影響を与える業種であるからこそ、地球環境保全に積極的に取り組んでいます。

2007年3月で創業50周年を迎え、これからもお客さまによるこぼれるサービスを提供し、荷物と真心を運ぶ現代の飛脚として事業を展開していきます。



### 佐川引越センター

国内23ヶ所に事業所を設置し、365日24時間営業体制で引越輸送のサービスや日本全国の貸切輸送車両の手配、佐川急便では輸送が困難な特殊な商品・美術品などの輸送を行っています。

また、個別の輸送システムの開発などにより、お客さまごとに最善の物流環境をご提案し、満足いただけるサービスを提供できるよう努めています。



### ギャラクシーエアラインズ

ギャラクシーエアラインズは、航空便の最大の利点である「遠距離スピード輸送」を活かし、新たなビジネス構築を可能にするため、2005年5月に設立しました。

常に安全を最優先した運航を行い、貨物専用機を用いて国内線の主要路線を軸に全国を結び、輸送サービスを営む皆さまに「翌日配達可能地域拡大」という最大のメリットとビジネスチャンスを提供していきます。



### 佐川グローバルロジスティクス

2007年3月、全国に延べ23万坪の物流拠点を有する佐川グローバルロジスティクスと、国際輸送・通関業務・国内航空輸送を取り扱う佐川グローバルエクスプレスが統合し、新たに佐川グローバルロジスティクスとしてスタートを切りました。

これまで培ってきたロジスティクスにおけるノウハウと、グローバルなネットワークを有機的に組み合わせ、アジア・ASEAN地域をはじめ、北米、欧州におけるネットワークを活用し、国内のみならず国際物流全般のソリューションを拡充していきます。



### 佐川フィナンシャル

佐川急便の代金引換サービスである「e-コレクト」決済事業を中核とした金融サービスを提供しています。

2000年6月より開始した「e-コレクト」サービスは、従来の現金に加えクレジットカードおよびデビットカードによる決済を可能にしたことから、高い支持をいただいております。年間約1兆円(2006年度実績)の決済を取り扱っています。

今後は、「e-コレクト」サービスで培った経験を活かし、21世紀の社会インフラの一翼を担う総合金融サービス企業を目指していきます。



### 佐川アドバンス

1975年に保険代理店として設立以来、SGホールディングスグループのトラックやグループ社員の自動車保険、傷害保険など、その他各種に関わるサービスを提供してきました。

現在では、保険・旅行・施設管理・商品開発・人材開発の5事業で全国展開し、今まで培ってきたグループサポート事業のノウハウを基礎に、グループの枠を超えた多種多様な分野のお客さまへの営業強化を図っています。

今後、刻々と変化していく社会環境に即応し、5事業の特性をフルに活用した新しいサービスを提供することで、お客さまに満足いただき、すべてのお客さまから選ばれる企業を目指していきます。





## 佐川ギャラクシーモーターズ

SGホールディングスグループをはじめ、全国の一般ユーザーさまが使用する車両の車検・点検整備、各種自動車の新車・中古車販売および車両ボデーの製造など、自動車に関する幅広い経験とノウハウでお客様の要望にお応えする、トータルカービジネス事業を展開しています。

国内に指定整備工場を15工場、認証整備工場を6工場、ボデー製造工場を2工場配置し、全国ネットのサービスを実現しています。

2003年には、環境に配慮した車両ボデーとして「ECO車体」を開発し、導入累計5,000台に達しました。



## 佐川コンピューター・システム

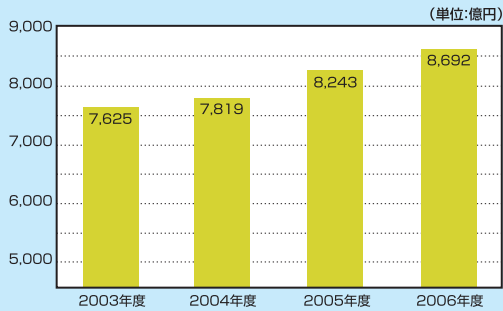
SGホールディングスグループにおける情報システムのコンサルティング、構築、運用・管理を担う一方で、お客様の要望を的確に捉え、経営的・戦略的観点を持って、お客様を第一に考えたシステムやソリューションを提供する「情報戦略のシンクタンク企業」として歩んできました。これまでに、各種業務システムのIT化を、企画から運用に至るまで一手に担った実績と、そこで蓄積した技術やノウハウを活かし、お客様の業務改善への要望に、ITでお応えしてきました。

これからも、物流業界だけにとどまらず、幅広い分野のお客様へ実務に直結したソリューションを提供し、満足いただけるよう努めていきます。

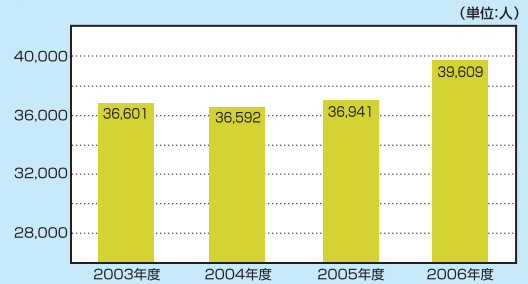


## SGホールディングスグループ事業データ

売上高 (連結)

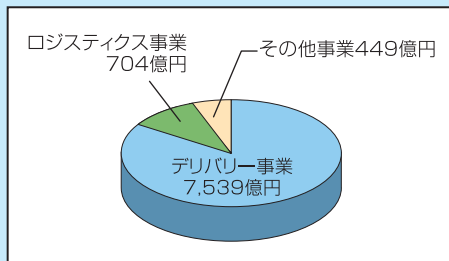


社員数 (連結)



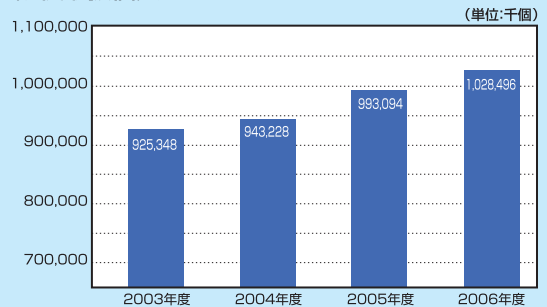
※2005年度までは国内社員のみの実績となります。2006年度からは海外法人も含めた社員数として集計しています。

売上高構成 (連結)

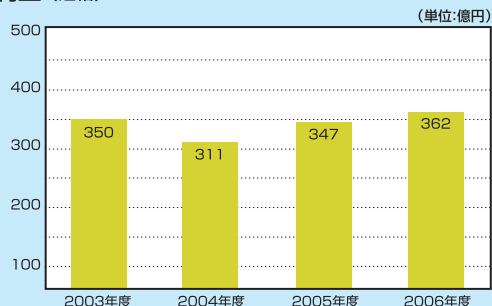


※2006年度は、SGホールディングスグループとして初めての決算となりました。また、売上構成も新たな事業区分による集計を行っています。

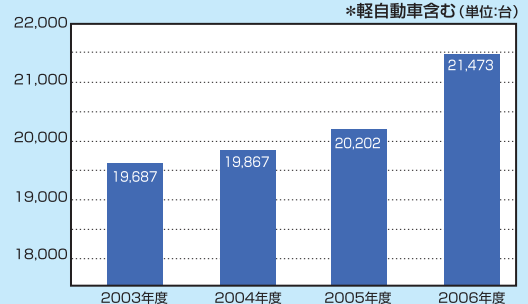
宅配便取扱個数 (佐川急便)



経常利益 (連結)



車両台数 (佐川急便)



※2003年度から2006年度における各種実績を掲載しています。

※社員数、車両台数、営業店数については、3月20日時点の数値を年度実績として掲載しています。

# アジアでの事業展開

急激な経済発展が進行する中国をはじめとしたアジア地域において、国内で培ったノウハウを拡大し、アジア地域における物流インフラの構築をサポートしています。

## 海外事業拠点



### 海外法人

- 佐川急便アジア株式会社
- 北京住商佐川急便物流有限公司
- 天津保利佐川国際貿易有限公司
- 上海保利佐川物流有限公司
- 上海大衆佐川急便物流有限公司
- 保利佐川物流有限公司
- 佐川急便(香港)有限公司
- 台湾佐川急便国際股份有限公司
- 佐川急便インドネシア株式会社
- 佐川急便フィリピン株式会社
- 佐川急便ベトナム
- 佐川急便コリア株式会社
- 佐川急便シンガポール株式会社
- 佐川急便タイ・コンテナ・ディスプレイ・ソリューション・サービス株式会社
- 佐川急便マレーシア株式会社
- 佐川急便ハワイ株式会社

## 2006年度トピックス

### 佐川急便マレーシア株式会社設立

マレーシアの首都クアラルンプールに事業拠点を設置し、国際フォワーディングを主体とする事業を開始しました。

#### 佐川急便マレーシア株式会社概要

(英 文: Sagawa Global Logistics (Malaysia) Sdn. Bhd.)

所在地: マレーシア セランゴール州シャーラム  
(クアラルンプール近郊)

資本金: 1,600,000 RM (約50百万円)

従業員: 20名

営業開始日: 2006年8月1日



### 中国速通服务公司と業務提携

佐川グローバルエクスプレス株式会社(現 佐川グローバルロジスティクス株式会社)は、幅広いユーザーに対し良質かつ迅速な国際宅配便サービスを提供するため、中華人民共和国郵政局傘下の中国速通服务公司との間で、日中両国間における輸出入国際宅配便業務に関し、業務提携協議書を2006年12月7日付で締結しました。

今回の業務提携により、日本国内は佐川急便・佐川グローバルエクスプレス(現 佐川グローバルロジスティクス)の集配ネットワーク、中国国内では中国郵政の集配ネットワークをお互いが共有することになり、中国全土に広がる中国郵政の66,000ヶ所の拠点網、5万台の集配車両と正社員40万人のインフラといった経営資源を双方が活用することで、競争力のある日中間国際宅配便サービスの提供が可能になりました。



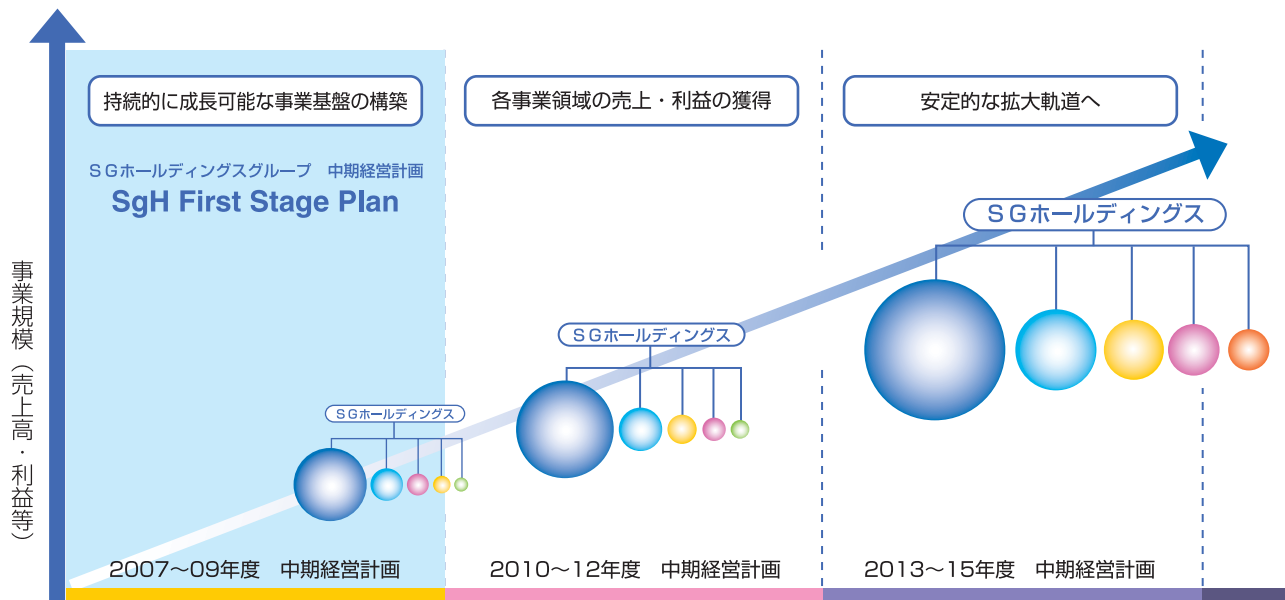
# 経営ビジョン

10年後のSGホールディングスグループのあり方を見据え、長期的な視野でグループを横断的に考えた事業展開を進めるため、計画の第一歩となる「SgH First Stage Plan」を策定しました。

## SGホールディングスグループ経営ビジョンと中期経営計画

「グループ各社が、それぞれの事業基盤を築き、新たな価値を創出する」

顧客ニーズの変化、市場環境の変化に迅速に対応し、未来永劫繁栄すべく変革・挑戦し続け、新たな「価値」を創造し、第2、第3、第4の柱となる事業を確立することに取り組みます。



2007～2009年度 10年間の経営ビジョン実現のためのスタート

### SgH First Stage Plan

10年後のあるべき姿に向けた基盤を最終的に形成



グループの中期経営計画に照らして、グループ各社はそれぞれが独自で中期経営計画を策定

### ■ 「SgH First Stage Plan」の基本方針

- グループ各社の自立経営の確立
- グループを先導するデリバリー事業の“強み”を拡張させるための事業基盤の構築
- ロジスティクス事業を第2の柱事業として確立
- グループ各社の成長・拡大、及びM&A等により、第3、第4の柱事業確立へ向け注力
- 人材の拡充・育成の課題への対応

# SGホールディングスグループのCSR体制

SGホールディングスは、グループのCSR（企業の社会的責任）として取り組む内容を「SGホールディングス行動憲章」にまとめ、「CSR委員会」を組織し、グループ横断的体制の整備に向け活動しています。

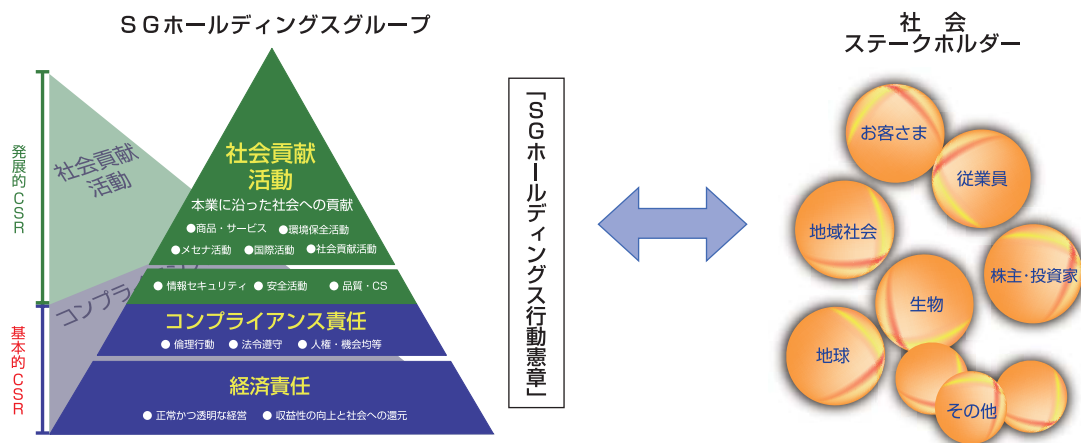
## CSRの基本概念

企業に対する社会や消費者のニーズが多様化、複雑化、高度化するなか、CSRを果たすことは、さまざまな社会的要請への適応力であり、会社組織をもって継続的に取り組み、信頼性の確保に努めるものであると考えています。概念としては、「基本的CSR」と「発展的CSR」の2つに分け、企業が存続す

るための「法令遵守（体制）」などは必須事項として基本的CSRと捉えています。

この基本的CSRの上には、企業の体力に合わせて社会への貢献活動などを成り立たせる発展的CSRが位置していると考えています。

### SGホールディングスグループ CSR基本概念図



グループ概要

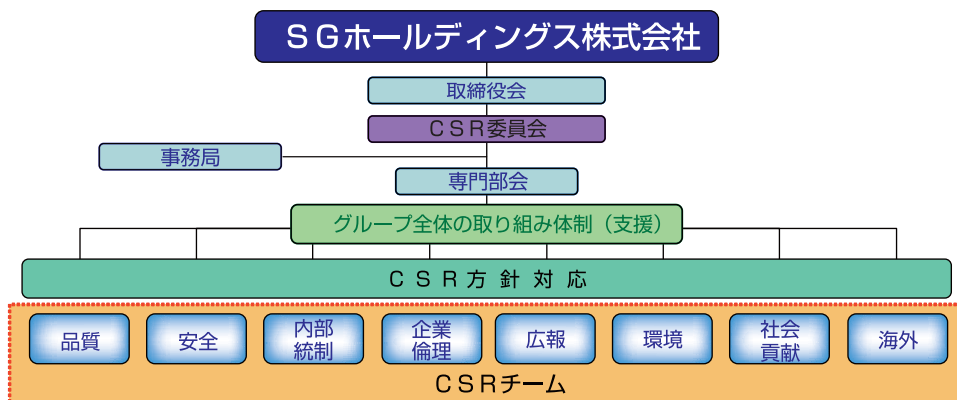
## CSR推進体制

2006年1月に従来の「エコプロジェクト推進委員会」から「CSR委員会」に改称し、本格的なCSR推進体制を整備しました。CSR委員会は、「SGホールディングス行動憲章」の実践を目指して、グループ全体の経営に波及させる管理体制（マネジメントシステム）の構築と、継続的改善を推進することを

目的としています。

本委員会の推進は、取締役自らの役割と認識のもとに、委員を取締役で構成し、委員長は代表取締役が務めています。また、具体的に8つの専門部会を組成し、実効性のある運用を目指して活動しています。

### SGホールディングスグループ CSR推進体制図





## コンプライアンス経営(基本的CSR)

SGホールディングスグループでは、「内部統制システムの基本方針」を定め、コンプライアンス体制を中心とした内部統制システムに沿って企業活動を行っています。

### ■ 内部統制システムの基本方針(概要)

当グループの企業活動全般にわたり、ルールを守りつつ、社会的責任を果たし、一方でリスク管理を行うことで不祥事を防止するコンプライアンス体制を中心とした内部統制システムを以下のとおりとする。

1. 業務執行体制
2. 情報の取り扱い
3. 財務面の統制
4. 業務執行に関する情報の保存および管理
5. リスク管理の原則
6. CSR委員会の設置
7. 企業集団における業務の適正を確保するための体制
8. 監査体制に関する事項
9. 取締役および従業員の監査役への報告体制
10. 内部監査体制

CSR委員会の専門部会である「企業倫理部会」と「内部統制部会」の役割は、グループにおける法令遵守体制を整備することであり、基本的CSRの中心的役割を担っています。

また、2008年度から施行される「金融商品取引法に係る内部統制」について、将来を見据えた当グループの事業活動、財務活動、そしてCSRの観点から、「財務報告に係る内部統制」構築の必要性を判断し、内部統制部会内にプロジェクトチームを設置しました。内部統制プロジェクトチームでは、SGホールディングスをはじめ各事業会社の背の丈に合った統制システムの構築を目指し、具体的な活動に入っています。

### ■ 企業倫理部会基本方針

当グループの行動憲章に基づく、役員、社員が遵守・実践すべき「CSR行動規範」を策定し、教育体制・社内醸成に向けた管理体系(マネジメントシステム)を推進することを基本方針として、一人ひとりの遵法精神と倫理観の向上を図り、企業風土を高めるとともに、社会からの信頼を得るための法令遵守体制を構築する。

### ■ 内部統制部会基本方針

社会に対する信頼性の確保に努めるべく、当グループの戦略と事業が、法令遵守体制をもって構築・推進することを基本方針とし、企業倫理部会と一体となり、その統制環境の整備を促進する。

## 危機管理体制

大規模災害をはじめ、重大な影響を及ぼすと予想される事態の未然防止や被害の最小化および、対策の継続的な改善を図る体制を整備しています。

平常時には危機管理推進組織として、「危機管理推進委員会」を設置しています。危機が発生したときには、必要に応じて対

策本部を佐川急便本社総務所管部署に設置し、速やかな対策を講じる体制となっています。

また、佐川急便では「国民保護法」に基づき、「佐川急便株式会社国民保護業務計画」を定め、万一の事態に備えた体制を整えています。

## 情報セキュリティ・個人情報の取り扱い

業務上、営業活動上の重要な情報、財務や経理の情報などのほかに、個人情報が入った荷物やデータなど、お客さまの大切な情報を扱っています。

そのため、取り扱う情報資産に関する管理について定め、故意や偶然という区別に関係なく、情報資産を改ざん、破壊、漏えい等から保護することを目的として、情報セキュリティ規程を設けています。

SGホールディングスグループの情報システムを担う、佐川コンピューター・システムでは、情報セキュリティマネジメントの世界標準であるISO27001を認証取得し、お客さまの大切な情報を高レベルな情報セキュリティ環境で維持・管理を行っています。

佐川コンピューター・システムが取得したISO27001のロゴ



IS90084/ISO (JIS Q) 27001

### ■ e-コレクト決済端末のセキュリティ対策

佐川急便のカード決済サービスである「e-コレクト」は、お客さまの玄関先でカード情報を読み込み、専用の決済端末で通信を行います。

お客さまの大切な情報を扱うことからセキュリティ面を心配されることがありますが、このシステムには万全のセキュリティ対策が施されており、通信中に情報が漏れいすることはありません。

情報化が進む現代社会において、お客さまに安心してご利用いただけるサービスとして展開しています。



セキュリティ対策万全の決済端末

## コンプライアンス経営を強化し、社会からの信頼回復をめざして

### 車両の盗難に対する再発防止について

佐川急便(株)協力会社の車両が盗まれる事件がありました。

#### ■概要／経緯

2006年8月19日深夜、佐川急便(株)江東店内にて、協力会社のトラックが何者かに盗まれるという事件が起りました。

盗まれた車両には、お客さまよりお預かりした荷物が積まれていた状態であり、8月26日に茨城県内で盗難車両が発見されましたが、積まれていた荷物は無くなっており、お客さまに多大なご迷惑をお掛けしました。

#### ■対応・再発防止対策

車両盗難防止に対する取り組み強化を協力会社にも徹底させると同時に、事業場内における警備の強化を図り、再発防止に努めて参ります。

### 協力会社による違法派遣労働に対する再発防止について

佐川急便(株)の協力会社において、違法な派遣労働がありました。

#### ■概要／経緯

佐川急便(株)名古屋店内において、荷物の仕分け作業等に従事する人員の派遣を協力会社に委託したところ、年齢を偽って人材派遣会社に登録していた中学生が派遣され、約8ヶ月間にわたり業務に従事させていました。

中学生の雇用を原則禁止している労働基準法に違反する内容として、名古屋南労働基準監督署より事情聴取を受けました。

#### ■対応・再発防止対策

業務委託契約を結ぶ協力会社に対し、派遣労働社員の身分・年齢確認の徹底を求めると同時に、派遣労働社員受け入れ時にも年齢確認を徹底する体制の整備を完了しました。また、新規の取引先が発生する際に実施している取引先選定委員会においても確認を強化し、再発防止に努めて参ります。

### 荷物の紛失に対する再発防止について

佐川急便(株)にて、お客さまよりお預かりした荷物を紛失するという事態が発生しました。

#### ■概要／経緯

2006年12月上旬にお客さまよりお預かりした荷物を、茨城県から新潟県に輸送中に紛失する事態を発生させてしまいました。荷物の中には重要な機密情報が含まれることが判明し、追跡調査を行いましたが発見できず、新潟県警に遺失物届けを提出し、お客さまに多大なご迷惑をお掛けしました。

#### ■対応・再発防止対策

お客さまよりお預かりした大切な荷物の管理において、管理手順の再徹底と強化を全社に通知すると同時に、荷物管理に対する社内監査を強化することで、再発防止に努めて参ります。

SGホールディングスグループでは、今回の事態を厳粛に受け止め、コンプライアンスのさらなる取り組みを強化し、グループ一丸となって再発防止に取り組んで参ります。





## 特集

# 佐川急便 創業50年のあゆみ

～走り続けた半世紀の軌跡～

みなさまに支えられ、佐川急便は創業50周年を迎えることができました

1957年3月、地下足袋に作業着姿の佐川清が、大切なお荷物を包むための一反風呂敷を肩にかけ、京都の自宅を後にしたその日から佐川急便の歴史が始まりました。

初めての荷物は、10台の高価なカメラ。以後50年、「お客さまのために、自分が今、何ができるかを考え、できることを常に精一杯実践する」という「飛脚の精神(こころ)」で、佐川急便はみなさまに支えられて今日まで成長してきました。

しかしその成長の過程には、それまで築き上げてきた社会的地位や信頼を失墜させるような出来事もありました。1991年に発覚した東京佐川事件は、社会的にも、財政的にも佐川急便の存続を根底から揺るがす、未曾有の出来事でありました。

その中であって、私たちは反省の上に立ち、「正々の旗、堂々の陣」を掲げ、過去との決別

を誓い、社会的信頼の回復と、9,000億円の有利子負債の償却、「新生佐川」「第二の創業」を目指して再建のスタートを切りました。そのような試練のときも、佐川急便グループ(現SGホールディングスグループ)と従業員を支えてくださったのは、以前と変わらない笑顔でセールスドライバーを迎え入れてくださり、お荷物を預けてくださった、たくさんのお客さまでした。

そのお客さまからのご期待に応えるべく、グループ一丸となって前進し、現在では従業員4万名、売上高8,700億円の企業グループへと成長することができました。

原点である「飛脚の精神(こころ)」を継承しつつ、走り続けて半世紀。情報技術の革新が急速に進み、経済・社会が大きな変革を迎えた今日も、その原点はいささかも揺らぐことはありません。

創業50年を迎えた2007年、過去の歴史を振り返り、新しい時代にふさわしい「飛脚の精神(こころ)」を受け継ぎながら、次なる50年に向け、みなさまとともに歩んで参りたいと思います。

# 創業者 佐川清のあゆみ

創業50年を経て売上高7,800億円を超える企業に成長した佐川急便の創業者「佐川清」の生涯は、実に波乱万丈なものでした。その中からいくつかのエピソードをご紹介します。

佐川清は、1922年3月、新潟県西南部に広がる、雪深い中頸城郡板倉村高野に父・徹治、母・はつの子として生まれました。

15歳の秋に家を出て、偶然辿り着いた京都駅で「飛脚業」と巡り会います。それから20年後、佐川清はいつもの偶然の後に、同じ京都の地で、佐川急便を創業することになります。



## ■「明日から、俺は飛脚になる」

1957年3月、佐川清は京都駅近くの棟割長屋の自宅を本拠に、たったひとりで飛脚業を始めました。資本となるのは丈夫な体ひとつ。その門出は本当にささやかなものでした。体は小さく、すでに30代半ばであったものの、体力・気力・仕事への情熱は誰にも負けないだけの自負・自信のあった清でした。

しかし年来の付き合い、信用を大事にする京都の町では、氏素性の知らない者に大切な商品を託そうというお客さまはいません。飛脚業を始めて5日経ち、10日経ち…肩に担いだ一反風呂敷を開く機会は一度も訪れませんでした。



佐川急便創業の地(京都市)

## ■ 初めての荷物は10台の高価なカメラ

さすがに気落ちした佐川清でしたが、毎日同じお客さまのもとに通い続けた結果、熱意に打たれたお客さまから「カメラを10台、京都河原町のカメラ店にすぐ届けてくれ」と、ついに初めてのお荷物をいただきます。1957年3月22日のことでした。初めて開いた一反風呂敷に丁寧に荷物を包み、しっかりと背中にくくった佐川清は一目散に駆け出しました。「飛脚の佐川」が始動した瞬間です。

お客さまの信頼を得て、初めて荷物をお預かりしたこの日は、佐川清にとって生涯忘れられない日になりました。

## ■ 近代日本の交通運輸の形成と「飛脚の佐川」

なぜ、たったひとり飛脚業を始めたばかりの佐川清に、高価なカメラなどの荷物が託されたのでしょうか。それは、近代日本の交通運輸の形成に大きくかかわっています。

明治初期、郵便制度の発足とともに、それまでの飛脚問屋の一部はこの制度に組み込まれ、その他の多くは民間の小口貨物の配達業務に携わることになりました。

やがて鉄道網が整備されていくに従って、中長距離輸送の主力は鉄道貨物が担い、近距離の戸口から戸口へ、あるいは駅と戸口間の貨物は、昔ながらの飛脚業や荷車、牛馬車が担う形で分業化が進んでいきます。いわば鉄道文化の発達とともに、飛脚業も発展していきました。欧米のように馬車から自動車へという発展段階をたどらなかった日本では、近代に入っても道は狭いままで、徒歩、人力が重要な運送手段でありました。

1923年の関東大震災後、首都圏を中心にトラック輸送が少しずつ発達しましたが、その実態は主要駅を核とする通運事業か特定都市会社を結ぶ路線事業、貸切貨物事業か、特定の会社や商店専属の配送トラックなどでありました。各地に散在する多くの問屋や商店、中小の会社の小口荷物をさまざまな目的地に配達するのは、昔ながらの小規模な飛脚業者であったのです。やがて戦時体制となって貴重なトラックやガソリンは軍需輸送に割り当てられ、民間需要をまかなうことができなくなりました。

そして、戦後の混乱期、日本の陸上輸送を支えたのは鉄道でした。しかし国鉄が運ぶ貨物は、いわば不急の石炭などの原料や大量生産型の重量物が中心でした。もちろん中小の製造会社や問屋、商店が発送する小口貨物もありましたが、日数もかかり、また駅への持ち込みも駅から目的地までの配送も費用が発生するため、不便・不経済でした。また、A地点からB地点へ輸送する路線トラックも小口貨物を対象にしていませんでした。結局、戦後社会においても、わずかな荷物を、鉄道を活用して戸口から戸口まですばやく、確実に運んでくれる飛脚業者はさわめて貴重な存在でありました。もちろん運賃は、大型輸送を基本とする鉄道貨物やトラック貨物よりも割高となります。

そこでカメラや時計、貴金属などの高価なもの、当日あるいは翌日中に届ける必要のある緊急性の高いものを取り扱う会社、問屋、商店などが佐川清の大切なお客さまとなっていったのです。



## ■ 佐川清と「飛脚の精神(こころ)」

ある日、問屋からかなり重い荷物をお預かりし、1軒の小売商店へ届けたときの話です。清は荷物を店先に降ろし、店を後にしようとした。しかし、何かの気配を背中に感じ振り向くと、そこにはその商店のおかみさんが必死に重い荷物を持ち上げようとしている姿がありました。清はすぐに駆け寄り、「気が利きませんでした」と謝りながら、お店の奥に運び込みました。おかみさんは心底喜ばれ、何度も何度もお礼の言葉を述べられました。

これ以降、清は配達先で必ず「どこにお荷物を置きましょうか」とお伺いし、そこまで運ぶことにしたのです。

また別の日、縄かけされた荷物がある倉庫まで配達したときのことです。清が配達を終えて戻ろうとすると、従業員の男性が、荷物の縄くずを掃除し始めました。清はそれは自分の仕事であると慌ててほうきを借り、自分が掃除をしたのです。

飛脚の精神(こころ)とは  
常にお客様に  
誠心誠意  
尽くすことである

「飛脚」とは、単に荷物を運ぶだけではない。お客さまのために、自分が今、何ができるかを考え、できることを常に精一杯実践する。もし仕事を全うできなかつたら、詰め腹を切る覚悟を忘れない。

これが佐川清の「飛脚の精神」でした。

## ■ 元祖「セールスドライバー」の心意気

佐川清の心意気を語る数多いエピソードの一つに、こんな話があります。

ある日の深夜、京都西陣の呉服店から、「花嫁衣裳を明日の午前中になんとしても島根県松江市内の結婚式場まで届けてほしい」という緊急注文が入りました。それは、結婚式に合わせて花嫁の実家が松江市内の百貨店に依頼し、京都の呉服店がその仕立てを行っていたものでした。しかし予想以上に日程が延びてしまい、仕立て上がり日が結婚式前夜。あわてて「飛脚の佐川」に依頼が入ったのです。佐川清は「分かりました」と考えることなく即座に引き受け、深夜の国道9号線を松江市目指して車を走らせました。ひたすら運転し続けて無事結婚式に間にあわせることが出来た佐川清が受け取った運賃は、着物1着だけの小口荷物1個分。「特別料金を払いたい」との申し出に、「ご注文のお荷物をお届けさせていただいただけですから」と、余分な料金は一切受け取らなかったそうです。

当時、まだ「セールスドライバー」という名称はありませんでしたが、佐川清は常に「お客さま」「荷物」に責任を持ち、お客さまのご要望に誠心誠意お応えしました。

その佐川清の心意気は、「飛脚の精神」として現在もSGホールディングスグループ全従業員の心に息づいています。

### 飛脚マークの由来



江戸時代から、飛脚は死んでも荷物を守り、届け先以外には絶対に中身を教えないのを鉄則にしていた。こちらが誠心誠意ことにあたれば、お客様のほうでもそれに応えてくれる。

どこの世界にただ単なるトラックの運転手に貴金属のいっぱい入った倉庫の鍵を預ける店があるだろうか。創業者佐川清は、どんなに会社が大きくなっても、この飛脚の精神でやりぬくぞと心に誓い、みずから筆をとって、チョン髷のふんどし男がはさみ箱をかついで走っている絵をかき、それを社章とした。



# 時代の移り変わり

佐川急便は、50年という時代とともに歩んできました。

その間には、技術の進歩とともに「物流」という社会インフラが、急激な進歩を遂げてきたことが伺えます。

1957年	1962年	1966年	1975年	1978年	1984年	1985年	1987年	1989年	1991年	1992年	1996年	1997年	
創業開始 京都・大阪間を主体とした飛脚業を開始する	有限会社佐川設立	佐川急便設立	佐川急便グループ統括本部・清和商事設立	国内100店舗目オープン	全国縦貫路線網完成	全国貨物追跡システム稼働	国内200店舗目オープン	全国トラックドライバーバーコンテストで佐川急便勢が初めて総合優勝・内閣総理大臣賞受賞(史上初の満点獲得)	東京佐川事件	出荷支援システム「飛伝98」販売開始	航空宅配便「飛脚航空便」取り扱い開始	創業40周年	国内300店舗目オープン エコプロジェクト推進委員会発足 佐川急便アジア設立

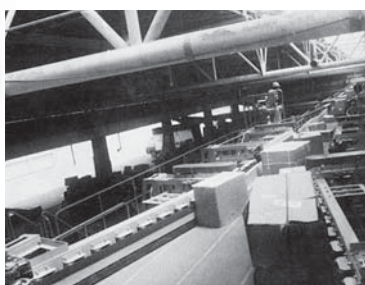


1960年ごろ使用していた軽三輪トラック。しかし荷台には350kgしか積めなかったため、たくさんの荷物が積める小型4輪トラックへ切り替わっていきました。



1個でも多くの荷物を積むために後部荷台の仕切り板を倒してその上に荷物を積み、幌をかけなおします。これを「バツタを切る」といい、高度経済成長時の物量の多さが伺えます。

1978



佐川急便で初めて導入された全長76mの大型自動仕分機。稼働に立ち会った人々は、整然と進行する仕分け作業にしばし見入っていたようです。

1979



1979年コンピューターを駆使した「電話対応システム」を開発。女性オペレーターとドライバーの電話連絡が急増し、社内恋愛や社内結婚に結びつくケースも少なくなかったとか…。



1980年代、日本のファッション業界はDCブランド全盛期。アパレルメーカーからの要望でハンガーに吊るした状態で輸送する「ハンガー輸送」を開始するなど、総合物流業への道を歩み始めます。

1980



1980年代半ば、1日の取り扱い荷物は100万個を超えていました。このような大規模な運送・物流サービスを支えたのがコンピューター・ネットワークです。荷物の到着を待ちわびるお客さまに、荷物がどこにあるのかをお答えするため、「貨物追跡システム」を全国規模で開始しました。

1985

1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2006年
宅配便「佐川急便」取り扱い開始 佐川美術館開館	ISO9001の取得を開始 保冷輸送サービス「飛脚クール便」全国展開開始	カード決済可能な代金引換サービス「e-コレクト」全国展開開始 「インターネットビジネス」営業開始	本気でISO14001認証取得	創業者・佐川清逝去	佐川急便と全国の地区法人34社が合併 中国初の宅配事業会社、上海大衆佐川急便物流有限公司営業開始	WWFジャパンとCO2削減プログラム(クライメート・セイバーズプログラム)に正式調印 日本初の電車型特急コンテナ列車「スーパーレールカーゴ」運行開始	純粋持株会社体制へ移行、SGホールディングス設立

1985



国際クーリエ工業をスタート。英語が話せる20名のクーリエレディーが、お揃いの制服で専用の集配車を運転。都内の外資系企業や貿易会社を訪問していました。

1995



1995年1月17日阪神淡路大震災が発生。即日、トラック11台、所有のヘリコプター3機による救援物資の輸送を行いました。「救援物資輸送中」と掲げた飛脚マークのトラックが支援物資の臨時仕分所となった新神戸駅を埋め尽くします。その後2ヶ月間にわたり、地元をはじめ全国から集まった飛脚たちが支援活動に奮闘しました。



創業40周年を記念して、シルバーとブルーの「ギャラクシー・ライン」が描かれた記念トラックがデビュー。

1997



アジア地域でのお客さまのニーズにこたえるため、「佐川急便アジア」を設立。アジアに佐川急便ネットワークの展開を開始しました。

2000



通信販売のニーズが高まり、従来の代引サービスに加え、カード決済を可能にした「e-コレクト」サービスを2000年に開始。各方面からの注目を集め、急速に普及しました。お客さまからは「クレジットカードのポイントが貯まってうれしい」という声も。カード社会時代が急速に加速しました。

2006



グループ待望の航空貨物専用機が就航。より早く・より高品質な輸送サービスを提供し、新たな物流のかたちを提案します。



# 未来へ向かって

佐川急便は、飛脚のごとく50年間走り続けてきました。50年という節目を迎え、社会から受けた恩恵を忘れることなく、これからも輝ける未来へ向かって走り続けます。

## ■ 新飛脚マークの導入

創業50周年を迎え、未来への新たな一歩を踏み出した佐川急便は、創業の精神を受け継ぎ、さらなる「進化と変革」の象徴として、新しい飛脚マークを導入しました。



新しい飛脚マークは、社員一人ひとりの姿勢を象徴的に表現したもので、額に汗しながら走る青い縞シャツのセールスドライバーと、「スピード」「若さ」「さわやかさ」といったイメージを凝縮しました。

また、セールスドライバーが持つ赤い箱は、社員一人ひとりの情熱（ハート）や思いやりを表すとともに、お預かりした個々の荷物には感動的な物語があると考え、大切な荷物に託されたお客さまの“熱い想い”も表現しています。

## ■ ユニフォームの刷新

佐川急便には約2万6,000人のセールスドライバーが在籍しています。その現代の飛脚ともいべきセールスドライバーの着用する「青い縞模様のユニフォーム」は、いまや日本全国で親しまれており、飛脚マーク同様、佐川急便のシンボルとして広く認知されています。

お客さまに親しまれている青い縞模様のデザインは残しつつ、新飛脚マークの導入に合わせ、よりスタイリッシュなデザインにリニューアルしました。



## ■ 商品名の刷新

お客さまが商品名（ネーミング）によってそのサービス内容が簡単にわかるように、サービス体系を再編し、商品名の統一とリニューアルを実施しました。これにより「佐川急便（宅配便）」は「飛脚宅配便」となります。そのほかの商品に関しても、「飛脚」を頭につけることにより、佐川急便が提供している商品・サービスであることを訴求し、認知向上を図っていきます。

※詳しくは、51ページをご覧ください。

佐川急便では創業以来、「飛脚の精神（こころ）」を受け継ぎ、お客さまからお預かりした大切な荷物を「迅速・確実・丁寧」にお届けすることに全力をあげてきました。この創業の原点は、50年経った今日でも変わることはありません。長年にわたって皆さまに愛され続け、高い認知度を獲得した飛脚マークを変更することは、勇気のいる決断ではありましたが、伝統や歴史をただ守り続けるのではなく、進化・変革を続けていく佐川急便の姿勢を皆さまに示すことが大切であると考えました。

これからも皆さまに愛され、選ばれる企業であり続けるために、  
飛脚の精神（こころ）で皆さまとともに歩んでいきます。  
輝ける未来へ向かって。

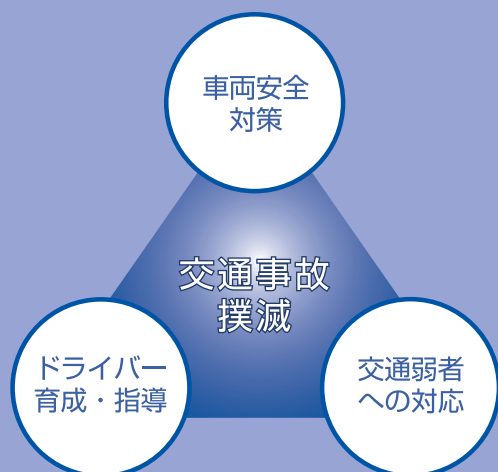




# 安全活動報告

～安全はすべてに優先する～

トラックを使用して事業を営む企業として、安全はすべてに優先するテーマです。安全な社会の創造を目指し、事故を未然に防ぐこと、子どもや高齢者を危険から守る取り組みを展開しています。



# 「安全」を支える体制づくり

交通事故を未然に防ぐには、基盤となる体制づくりが不可欠です。安全を最優先に考え、交通事故ゼロを目指した体制づくりに努めています。

## 安全管理体制

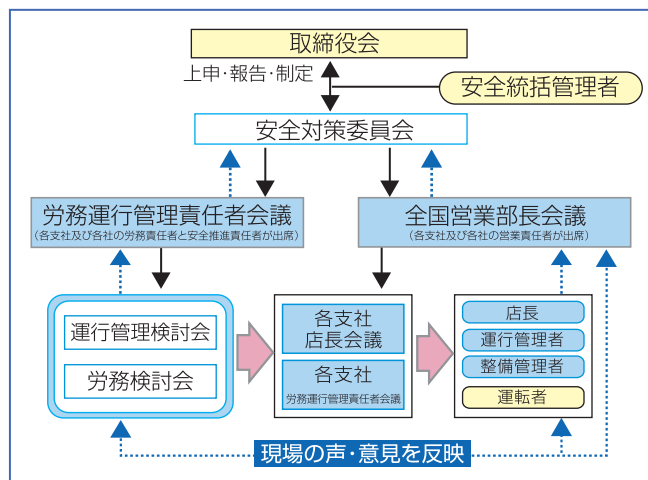
2006年10月から、運輸安全マネジメントの導入に伴う貨物自動車運送事業法の一部を改正する法律が施行され、事業経営において「輸送の安全性を確保する」ことが法的に明確化されました。

佐川急便では、安全確保を前提とした事業経営のため、全国を9つに分けた地区の執行責任者を委員とした「安全対策委員会」を組織しています。これは、さまざまな課題について、安全推進活動状況や事故・違反の発生状況を認識した上で、トップ自らが討議を行っています。

また、各現場の責任者による検討会を定期的実施するなど、現場の意見を反映したさまざまな安全施策を考案し、改善を重ねています。

ドライバーの拠点である営業店には、安全推進職を配置し、日々の乗務前後の対面点呼を安全運転の基本として活動しています。

### ■ 安全管理体制



## 安全管理計画

車両事故を未然に防止する活動として、「輸送安全対策年間計画」を策定し、月々の対策を推進しています。

営業店においては、この計画を基に地域の気候、交通事情等の特性に合わせて、運転者に対する指導を行っています。

また、安全意識を高めるために、ポスターや社内報「飛脚」などを活用し、ビジュアルコミュニケーションツールとして従業員に理解されやすい情報発信を行っています。



運転者に最も効果的な添乗研修については、社内で定めたルールを基準として、対象者と時期を定めて計画的に実施しており、危険要因の排除と安全行動を継続するよう指導を行っています。



また、安全行動の基本を忘れず、徹底した安全行動を実践するためのルールとして「安全運転徹底7項目」を制定しています。さらに、運転中の携帯電話使用禁止と運転中の着信を配慮した発信側のルールとして「7 RING RULE」(セブンリングルール)を制定し、ハード面による安全対策と併せて、交通事故の大きな要因となっているヒューマンエラー(人的過誤)の防止を図っています。



# 「プロ」ドライバーの育成

交通事故を起こさないためには、トラックを運転するドライバーの育成が大切です。

「プロ」であることの自覚と運転技術、安全確保の知識を身につけさせる取り組みを徹底しています。

## 佐川ライセンスによる育成

交通事故ゼロを目指して、独自の社内資格「佐川ライセンス」を導入しています。

このライセンスは、新人ドライバーや現職ドライバーに対して、現場で指導・教育にあたる基準に合格した指導員を認定する制度で、ライセンスには2種類あります。

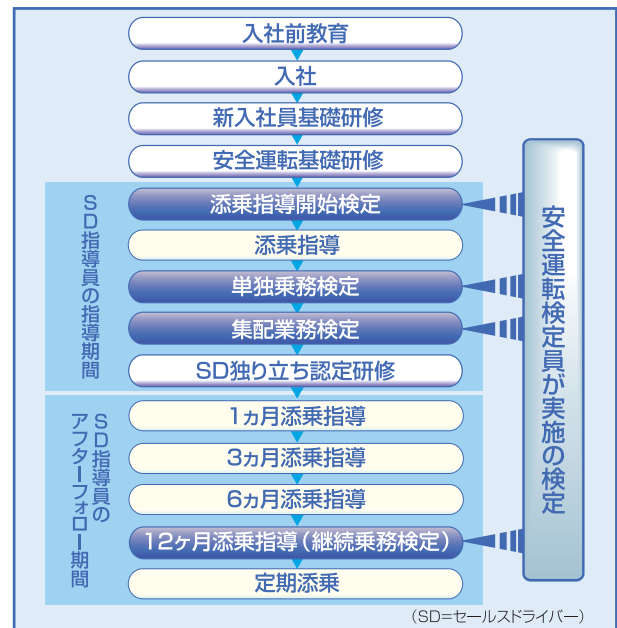
SD指導員は、新人ドライバーに対して、マンツーマンの指導からその後1年間のフォローをする役割を担います。

また「安全運転検定員」は、単独乗務検定や継続乗務検定などさまざまな検定をする役割を担います。

以前はベテランドライバーが新人ドライバーに指導を行っていたため、教育方法もまちまちでしたが、この制度の導入により、全国统一された教育で安全運転に対する標準化を徹底しています。



## ■ 新人ドライバーの育成フロー



## ドライバーコンテストでの成果

交通法規の遵守と、運転・点検技術の向上を図り、交通安全に対する意識の高揚による交通事故の防止を目的に、1993年より「佐川急便全国ドライバーコンテスト」を開催しています。

2006年度より、宅配への機動性と、安全性確保を図るために「軽自動車部門」と、エコ安全ドライブの推進と啓発を目的に「エコ安全ドライブ部門」を新設し、従来の採点以外に「エコ安全ドライブ」に特化した採点方法も導入しました。



車両点検の技術も競い合います

また、10月に開催された、プロのトラックドライバー日本一を競う(社)全日本トラック協会主催の「第38回全国トラックドライバーコンテスト」においては、佐川急便の出場選手が総合優勝にあたる内閣総理大臣賞を受賞しました。今回の内閣総理大臣賞はグループとして12回目の受賞であり、最多の受賞回数となりました。2トン部門では1位から5位を独占するなど、SGホールディングスグループから出場した47名のうち、11名が入賞を果たしたことから、ドライバー育成の成果があらわれています。

## ■ 全国トラックドライバー・コンテスト入賞者

部門	順位	氏名	※1 所属	代表地区名	合計得点	備考
2トン	1	篠原 英之	西埼玉店	埼玉県	975	内閣総理大臣賞、警察庁長官賞
	2	飯塚 修	桐生店	群馬県	973	
	3	笹川 哲也	三鷹店	東京都	965	
	4	菅野 耕一	岩手店	岩手県	958	
	5	森 洋一郎	高野口店	和歌山県	956	
4トン	1	鶴谷 利幸	古川店	宮城県	958	警察庁長官賞
11トン	5	谷 充洋	佐川キャラクターハイウェイズ 北関東営業所	埼玉県	928	
女性	1	根本 志絵	さいたま店	埼玉県	933	警察庁長官賞
	2	大西 由希子	延岡店	宮崎県	930	
	3	西尾 なおみ	岐阜店	岐阜県	913	
	5	奥山 淳子	山形店	山形県	853	

※1 受賞当時の所属



内閣総理大臣賞を獲得した佐川急便 西埼玉店 篠原英之



機敏な点検動作



# エコ安全ドライブの取り組み

安全運転とエコドライブには共通点が多いことに着目し、安全かつ環境にもやさしい独自の運転方法「エコ安全ドライブ」を推進しています。

## エコ安全ドライブの推進

佐川急便では、新人ドライバーから現職ドライバーまで全ドライバーが取り組むべきものとして、「エコ安全ドライブ」という独自の運転方法を推進し、全社を挙げて取り組んでいます。

これは、交通事故の撲滅に向けて、ドライバー一人ひとりが安全意識を高め、急加速や急発進、急停止などを発生させない滑らかなやさしい運転を心掛けることで、自然と環境にも配慮した運転が行えるという考えから生まれた運転方法です。

### ■ エコ安全ドライブ推進のためのポイント

1. 知識と技術を身に付けた指導員の育成
2. ドライバーの現行の運転イメージの変更
3. 検証を行うためのツール

### ■ エコ安全ドライブの効果

エコ安全ドライブを行うことで、安全性の追求、環境にやさしい運転による省エネと排出ガス削減、また燃費の向上によるコストの低減など、「安全」「環境」「経営」にさまざまな効果が得られます。

#### ① 環境面の効果

アイドリングストップの実施や、急加速・急発進・急停止を行わないことなどの行動により排出ガスを削減でき、環境に有害な物質による環境負荷を最小限に抑えることができます。

#### ② 安全面の効果

アクセルを踏まない、ゆったりとした発進やエンジンブレーキの活用と構えブレーキの実施などにより、不測の事態への心構えが十分に行えます。

#### ③ 経営面の効果

エコ安全ドライブを実施することにより、燃料消費量を確実に削減することができ、コスト削減につながります。



### ■ エコ安全ドライブ研修

エコ安全ドライブを推進するためには、知識と技術を身に付けた指導員の育成が重要であると考え、エコ安全ドライブ指導員の育成を行っています。

2006年度は、佐川急便の全営業店の安全推進職を対象に、14回のエコ安全ドライブ研修を開催しました。延べ484名が受講し、すべての営業店にエコ安全ドライブ指導員を配置しました。

<主な研修内容>

- 通常走行による運転診断
- トラックの車両特性講習
- 省エネ走行のメカニズム講習
- 運転診断に基づく省エネ運転指導
- 省エネ運転習熟指導



### ■ エコ安全ドライブ7ヶ条

エコ安全ドライブ推進の具体的な方法から、特に重要とされる7つの項目に絞り、「エコ安全ドライブ7ヶ条」を設定しています。社員手帳への掲載や、ポスターの掲示を行い、全従業員への啓発と定着を図っています。

また、「エコ安全ドライブ7ヶ条実践マニュアル」ビデオを活用し、営業店ごとに指導を実施することにより、従業員に深く浸透させています。



社員手帳にも掲載

掲示用啓発ポスター

## ■ アイドリングストップ運動

「エコ安全ドライブ7ヶ条」にも含まれているアイドリングストップを、佐川急便では1997年からすべての車両で実施しています。

営業店での荷物の積み降ろし作業時や、お客さまへの集配業務時など、ドライバーが車から離れる場合、必ずエンジンを停止させ、キーを抜くことをすべてのドライバーが実践しています。

これにより、無駄な燃料消費を防ぎ、CO<sub>2</sub>やNO<sub>x</sub>、PMなどを含む排出ガスの削減に結びついています。1日に2時間のアイドリングストップを全車両で実行すると、1年間(300日換算)で約2.4万トンのCO<sub>2</sub>の削減効果と、約9億円の燃料費を削減できることから、非常に大きな効果を得られています。

また、車両の後方にはアイドリングストップのステッカーを貼付し、他のドライバーにもアイドリングストップを呼びかけています。



キーチェーンを装着しています



アイドリングストップステッカー

## ■ 豊橋研修センターを開設

実践的な研修が可能な「佐川急便豊橋研修センター」が2007年1月にオープンしました。コースのあちこちに灰色の壁が設けられ、見通しの悪い交差点など、実際の市街地に近いコースを再現しています。

また天候によって研修スケジュールが左右されないよう、全天候型のスペースも備え、限られた時間内ですべての研修が行える環境を整えています。

その他にも、ハンディキャップトイレを設置するなど、バリアフリー設計を採用しています。



佐川急便豊橋研修センター

## ※ Topic

### エコドライブコンテストでの成果

佐川急便川崎店が「平成18年度エコドライブコンテスト」において最も高い評価である環境大臣賞を受賞しました。このコンテストは、環境省・(独)環境再生保全機構が主催し、各事業所で推進しているエコドライブ活動の実践内容と成果を評価するものです。

コンテストに応募した全175事業所から、川崎店が環境大臣賞を受賞したほか、亀岡店が入賞を果たしました。



### ■ 今後の取り組み

宅配便事業は特定エリア内で集配業務を行う特性上、大型車両で、主に高速道路を使用する輸送形態に比べ、エコドライブの効果が低いといわれています。

2007年度は、さらなる成果を上げるため、全社員へのエコ安全ドライブの浸透を目指し、12回のエコ安全ドライブ研修を開催する予定です。この研修により、全国の安全運転検定員等を対象に、360名のエコ安全ドライブ指導員の養成を計画しています。

### ■ 施設の特徴



見通しの悪い交差点など、実際の道路事情を再現したコース



雨天でも研修が行える全天候型のスペース



最大400名を収容できる研修室



長期研修にも対応できる、90名の収容が可能な宿泊施設(男女別棟)



# 車両対策による安全への取り組み

交通事故につながる車両不備を未然に改善するため、万全な車両管理体制を整備しています。

## 徹底した点検整備の実施

### ■ 車両点検整備体制

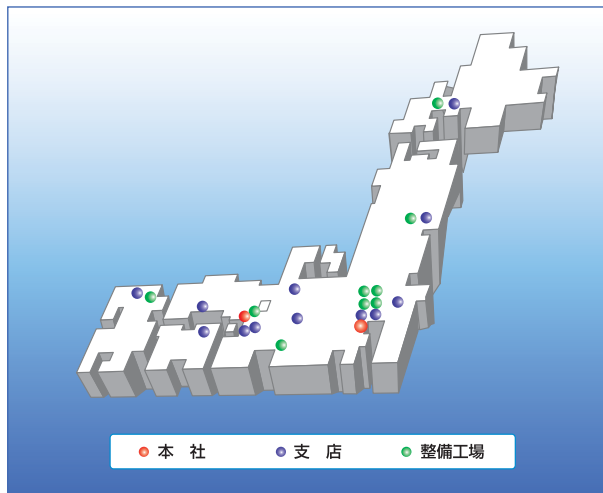
佐川ギャラクシーモーターズでは、最新の設備を備えた工場で、優れた技術をもつ整備士353名（1級自動車整備士取得者10名、自動車検査員資格者76名含む）が車両の整備を行っています。

それらの工場は、全国21ヶ所に及び、その内の15ヶ所が指定工場（民間車検工場）で、国の機関の代役を務めるとともに、カーユーザーの安全確保や環境の保護に貢献しています。



また、277の協力会社との連携により、日本全国に広がる車両整備ネットワークを構築し、安全な交通社会の実現に向けた車両整備体制を整えています。

### ■ 佐川ギャラクシーモーターズ車両整備ネットワーク



安全活動報告

### ■ 車両整備の徹底

SGホールディングスグループが保有するすべての営業用車両は、車両運行前に乗車するドライバーが必ず日常点検を実施しています。また、日常点検以外にも車両整備計画に基づき、3ヶ月点検および12ヶ月点検を必ず実施しています。

これらの日常点検・定期点検により、車両不備による事故の発生を未然に防ぐと同時に、十分な点検整備による環境負荷低減にもつながっています。

当グループの車両整備を担う佐川ギャラクシーモーターズおよび協力工場では、2万台を超える車両の整備を担当しており、標準化された点検整備項目を確実に実施することで、車両不備による事故撲滅に向けて取り組んでいます。

### ■ 定期点検の流れ



受入点検



車両整備



完成検査

## 幹線輸送車両の安全確保

佐川急便では、幹線輸送を担う協力会社を対象に、交通安全に対する意識の高揚と、安定した幹線輸送の確立を目的とした取り組みを行っています。

### ■ 幹線輸送全国一斉安全パトロール

長距離を運転する幹線輸送ドライバーの過労運転や、過積載運行の未然防止と、ドライバーの安全意識の高揚を目的とした「佐川急便幹線輸送全国一斉安全パトロール」を毎年春と秋の年2回実施しています。

2006年度は、高速道路を走行する際、最も多いタイヤトラブルの撲滅を目的に、「車両足回り点検の強化目指せパンク0」を重点項目に掲げて取り組みました。

全国各地の高速道路の主要サービスエリア・パーキングエリアや営業店計43ヶ所を中心に、運行管理者や整備管理者が幹線輸送ドライバーの健康状態の確認や、安全運行の呼びかけをするとともに、日常点検基準に準じた車両点検を行いました。

さらに、日頃から利用させていただいているサービスエリア・パーキングエリアの清掃活動を実施しました。



幹線輸送全国一斉安全パトロールポスター



幹線輸送全国一斉安全パトロールの様子



清掃活動も行いました

### ■ 幹線輸送全国一斉ターミナル点検

佐川急便の全拠点にて、ドライバーの安全意識の高揚と、交通事故・故障の未然防止を図り、安定した輸送品質を維持することを目的とした「佐川急便幹線輸送全国一斉ターミナル点検」を年2回実施しています。

出発前にチェックシートに基づく点検を実施しており、車両の整備状況を確認するほか、ドライバーに安全運行を呼びかけています。



幹線輸送全国一斉ターミナル点検ポスター



一台ずつ確実に実施しています

### ■ 幹線輸送全国一斉安全パトロール実績(2006年度)

実施日	点検総台数	不具合台数	点検スタッフ
2006年4月7日～8日	3,401	22	849
2006年9月8日～9日	3,292	13	830

### ■ 幹線輸送全国一斉ターミナル点検実績(2006年度)

実施日	点検総台数	不具合件数
2006年7月10日	5,368	138
2007年1月15日	5,395	152

ターミナル点検による出発前の早期発見・迅速な対応、また安全パトロールでの800名を超えるスタッフによる徹底した点検によって交通事故や故障の発生を未然に防ぎ、改めて車両点検の重要性を再認識しています。





# 子どもたちの安全を守る

幼い命を守るため、一人でも多くの子どもたちが危険を回避できることを願って、子どもたちに交通ルールを守ることの大切さを伝える「さがわきゅうびん交通安全教室」を開催しています。

## 「さがわきゅうびん交通安全教室」の取り組み

2003年から、全国の佐川急便の支社・営業店で、保育園児・幼稚園児・小学校低学年児童を対象に、「さがわきゅうびん交通安全教室」を実施しています。

心身ともに発達段階にある子どもたちは、好奇心が旺盛な反面、注意力が低く、交通ルールを理解していないことから、思いがけない行動に出ることがあります。この未来ある子どもたちの生命を悲惨な事故から守りたいという強い思いを胸に、2006年度は全国で727回実施し、118,403名の子ども



もたちが参加してくれました。

運営の中心になっているのは女性従業員です。「交通安全お姉さん」として、子どもたちの視線に立った丁寧な

指導は、教育機関やPTA、警察関係者からも高い評価をいただいています。

また、日頃ハンドルを握っているドライバーも積極的に参加しています。2006年度は1,998名のドライバーが参加しました。子どもたちの真剣なまなざしや笑顔に出会うことで、教える側も改めて多くのことを学び、安全に対する意識を向上させています。



北美小学校は、国道に面して建っているため、目の前は車だらけです。しかも高速道路の出口も近くにあり、結構なスピードで走行しています。それだけに、普段から子どもたちには繰り返し交通安全について話してきました。が、中にはウーマク(わんぱくの意)な子もいて、なかなか言うことを聞いてくれない。だから、毎日横断歩道に立って子どもたちを守ってくれる佐川さんの取り組みは、本当に助かって

います。おかげで子どもたちも、登校時はきちんと信号を守って、横断歩道を渡ってくれています。

それともうひとつ。ボランティアとはどういうものか?ということも、子どもたちだけでなく、その親御さんたちにも示してくれていると思います。これからも、この素晴らしい取り組みを続けてください。 沖縄市立 北美小学校 校長 宮城 幸子様

## 子どもたちからの贈り物

交通安全教室を開催した支社や営業店には、時に思わぬ贈り物が届けられることがあります。参加してくれた子どもたちからの感想文やお礼の手紙です。一生懸命で、心のこもったお手紙をいただくたびに、「この子たちを絶対に事故に遭わせてはいけない」と強く思います。同時に、ハンドルを握る者の責任の重さと、「さがわきゅうびん交通安全教室」が担う役割の重要性を実感しています。



かわいなお手紙をいただきました

## \*Voice

「安全はすべてに優先する」このことばの本当の意味を教えてくれたのは、子どもたちの笑顔です。いつも笑顔で迎えてくれる子どもたちを見ていると、「この子たちの笑顔は私たちが守らなければ!」と強く思います。もし、交通安全教室に参加してくれた子どもたちが「お姉さんが教えてくれたように、車には気をつけなくちゃ」と考えて、そのおかげで交通事故を回避できたとしたら、こんなにうれしいことはありません。

これからも機会がある限り交通安全教室に参加して、一人でも多くの子どもたちに交通安全の大切さを伝えていきたいと思います。「交通安全教室に参加してくれた子どもたちから、絶対に不幸な子を出さない!」これが私の目標です。



佐川急便 高知店 西内 左枝

## \*Voice



# 安全な社会を目指して

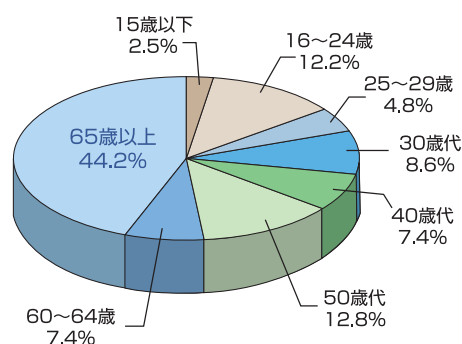
すべての人々が安全で安心できる交通社会の実現に向け、さまざまな活動を行っています。

## 交通事故回避に向けて（歩行者の特性を理解する）

重大人身事故を防止するために、周りの状況を即座に判断することが重要です。特に交通弱者の立場に立った運転を心掛けるための危険運転体験研修を実施しています。この研修では、飲酒体験ゴーグルを装着した走行体験や、幼児視界体験メガネを装着した横断歩道の横断体験などを行い、その特性を体験することで、安全運転の重要性を再確認しています。歩行者の不意な行動を理解し、事前に危険を予測することで、交通事故を回避できることもあります。運転のプロとして、交通弱者の行動特性や、事故防止ポイントを認識し、安全運転に徹しています。



飲酒体験ゴーグルによる歩行体験



2006年度年齢層別交通事故死者の構成 <出典：警察庁>

これまで、幼児・小学生に対する交通安全教室が中心でしたが、今後は幼児・小学生と同様に、高齢者向けの交通安全教室も積極的に開催し、交通事故を未然に防ぐ活動を展開していきます。



高齢者向け交通安全教室

### ■ 高齢者の特性を理解する

警察庁の統計によると、2006年中の交通事故による死者数6,352名のうち、44.2%は高齢者（65歳以上）という結果が出ています。これは高齢者の人口構成率20.1%（2005年10月1日現在国勢調査値）の2倍を超える非常に高い数値です。

## シンポジウムへの参加

2006年9月5日、国土交通省主催の「公共交通の安全」をテーマにしたシンポジウムに、佐川急便代表取締役専務の辻尾敏明がパネリストとして参加しました。このシンポジウムは運輸事業者に対して安全マネジメント体制の構築について周知するとともに、国による公共交通機関の安全確保に係る取り組みについて認識させ、今後の公共交通機関の安全の方向性を探ることを目的としています。



シンポジウムのお様子

「安全」をどのように構築していくかを考える講演では、佐川急便が実施している幹線輸送全国一斉安全パトロールなど、協力会社も含めた形で安全確保に取り組んでいることなどを紹介しました。

## 「安全性優良事業所」の認定取得

利用者が、より安全性の高いトラック運送事業者を選択しやすくするとともに、事業者全体の安全に対する意識の高揚を目的とした、国土交通省の「安全性優良事業所」の認定を、349の事業所が取得しています（2007年3月20日現在）。



安全性優良事業所認定証



# 環境活動報告

～美しい空へ～

「地球の美しい空を守りたい」

トラックが地球環境に与える影響は大きく、人類共通の課題である地球温暖化防止をはじめ、さまざまなテーマに対し、ハード面（物的対応）とソフト面（教育・啓発）を組み合わせ取り組んでいます。

佐川急便では、自社のエネルギー使用量やCO<sub>2</sub>排出量を把握し広く公表しています。従来は、実績数値の把握が可能な佐川急便（株）内の情報のみ公表していましたが、今後においては、業務委託をしている幹線輸送や配達業務、鉄道・船によるモーダルシフト、当グループ会社のギャラクシーエアラインズ（株）およびその他航空会社による航空機輸送に至る範囲の情報収集が可能になりつつあることから、グループ全体（一部外部委託）のエネルギー消費量、CO<sub>2</sub>排出量を把握し、広く公表していきたいと考えております。





# 環境負荷低減に向けて

事業活動に伴い発生する環境負荷の把握に努め、循環型社会の構築に向けて取り組んでいます。

## 環境負荷低減への責任と対策

総合物流企業が環境に与える影響は大きく、特にトラック輸送では、化石燃料を使用して、地球温暖化・大気汚染の原因となる排気ガスを排出しています。

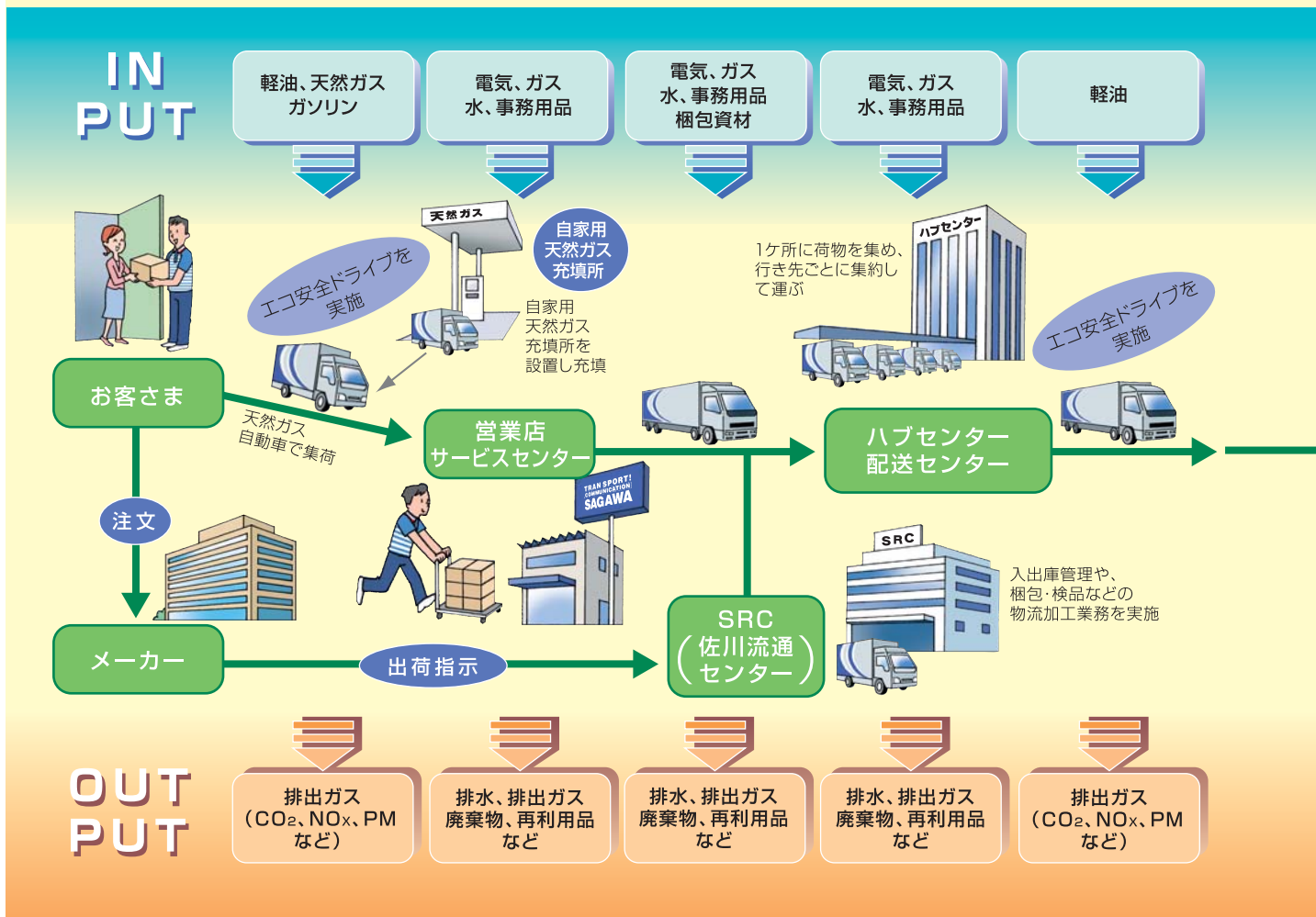
つまり、環境負荷低減への取り組みを積極的に行わなければならない業種であり、企業の責任であると考えています。

佐川急便では、トラック輸送による環境負荷低減の取り組みをいち早く開始し、低公害車の大量導入をはじめ、佐川流通セ

ンターやハブセンター設置による輸送の効率化、アイドリングストップなどエコ安全ドライブによる排出ガスの削減、サービスセンターの設置による台車・自転車での集配業務など、さまざまな活動を行っています。

また、グループ従業員や家族、広く一般に対する環境啓発活動にも積極的に取り組んでいます。

### 物流事業における環境負荷



## 環境理念と環境方針

### 環境理念

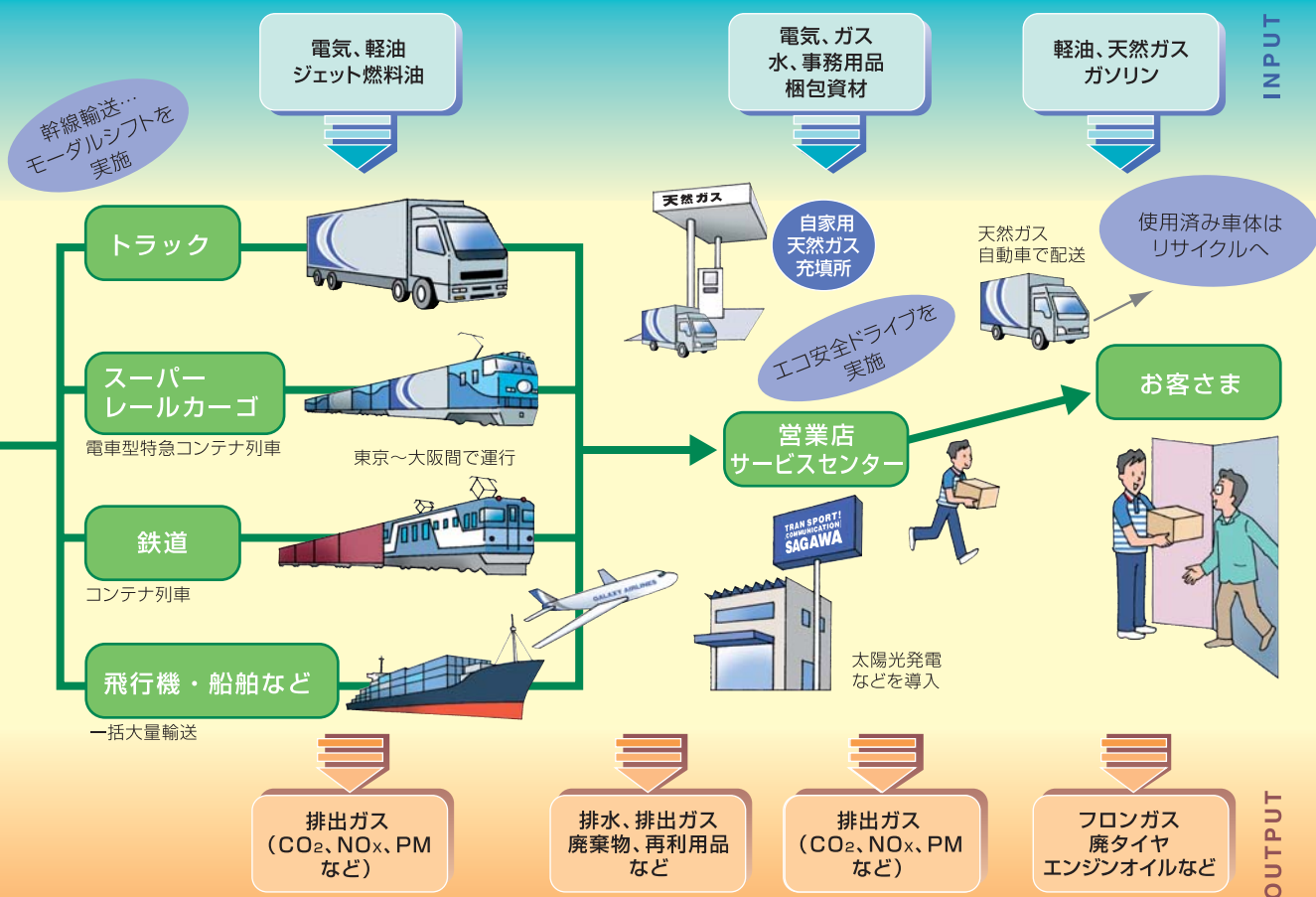
佐川急便は「良き企業市民」として自主的で継続的な環境保全の為に基本方針を定め、社会と自然との共生を図りつつ、地球規模の環境問題に取り組み、地域社会の発展に貢献します。

### 環境方針

1. 排出ガスによる地球温暖化、大気汚染を防止するため、輸送の効率化、低公害車の導入、エコドライブの実践を推進し、環境保全のための継続的な改善を図ります。
2. 省資源・省エネルギー・3Rを推進し、循環型社会構築のために、その取り組みに対する改善、企画、提案をします。
3. 環境関連法規制、条例、協定及びその他の要求事項を順守し、環境負荷の低減、環境汚染の防止に努めます。
4. 環境教育、啓発活動を通じて全従業員に本方針を周知し、環境活動を推進します。さらに広く一般に本方針並びに当社の環境活動に関する情報を提供します。
5. 環境目的、環境目標を定め、定期的に見直すことにより、環境マネジメントシステムの継続的な改善に努めます。

	排出量
CO <sub>2</sub>	34.57万トン
*NO <sub>x</sub> (軽自動車含む)	254.14トン
*PM (軽自動車含む)	33.47トン

- CO<sub>2</sub>排出係数：環境省2002年12月19日発表「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」に基づく。
  - 佐川急便施設内に併設するグループ会社や外部テナント等による各項目を除外した範囲で集計しています。
  - NO<sub>x</sub>/PM排出量算定方法：国土交通省の定める車両型式ごとの排出係数を基に、車両ごとの走行距離から理論上の推定値を算出しています。
- 計算式：佐川急便(株)が保有する全車両の車両型式ごとの排出係数(g/km) × 年間走行距離(km) の総計。



\*NO<sub>x</sub> … Nitrogen Oxide 窒素酸化物 (光化学スモッグや酸性雨などを引き起こす大気汚染原因物質とされる)  
\*PM … Particulate Matter 粒子状物質 (ぜんそくや気管支炎を引き起こすとされる)

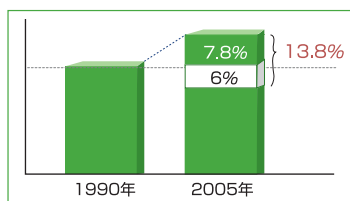
# 地球温暖化防止・大気汚染防止への取り組み

トラックを使用し事業を営む総合物流企業として、「大気」への影響を最重要課題とし、地球温暖化防止、大気汚染防止の活動に取り組んでいます。

## 日本の現状

環境省から発表された2005年度の温室効果ガス排出量によると、日本の温室効果ガスの総排出量は約13億6,000万トン(二酸化炭素換算)で、京都議定書の規定による基準年の総排出量と比べて7.8%上回っています。日本は京都議定書で温室効果ガスを1990年比で6%削減すると約束しており、その約束を果たすためには13.8%の削減が必要です。

■ 日本の温室効果ガス排出量



## クライメート・セイバーズ・プログラム

「クライメート・セイバーズ・プログラム」とは、世界最大の民間自然保護団体であるWWFと、先進的な環境対策を進めている世界の企業が協働して、温室効果ガスの削減を目指すものです。このプログラムの最大の特徴は、WWFとの対話を通じての削減目標設定と、第三者機関による検証が行われることで、これにより企業は透明性と信頼性を得ることができます。

佐川急便は、クライメート・セイバーズ・プログラムに日本企業として第一号、物流企業としては世界で唯一参加をしています。



## 佐川急便のクライメート・セイバーズ・プログラムの取り組み

佐川急便は2003年にWWFと覚書を締結し、2012年度までにCO<sub>2</sub>総排出量を2002年度比で6%削減するという目標を立てました。

もし、2012年度まで天然ガス自動車を導入せず、ディーゼル車だけを増車し続けたと仮定すると、CO<sub>2</sub>の排出量は、2002年度の約36万トンから約39万トンに増加してしまいます。

そこで、2012年度の総排出量を6%削減の約34万トンにするために、天然ガス自動車を7,000台導入する計画を立てました。

この目標値は事業活動で使用する燃料や電力の使用量を基に、会社全体で排出しているCO<sub>2</sub>の総排出量である絶対量で策定しています。

したがって、事業活動の拡大に伴うCO<sub>2</sub>排出量の増加が認められない、非常に厳しい目標を自ら設定しました。



天然ガス自動車

## 4年間で2.86%のCO<sub>2</sub>を削減(2002~2006年度)

佐川急便では、2002年度から2006年度までの4年間に天然ガス自動車を1,110台から3,290台へ増やし、軽油自動車を17,246台から15,145台に減らしました。その結果、天然ガス自動車導入などによるCO<sub>2</sub>の削減効果は、2002年度比で2.86%、CO<sub>2</sub>換算で10,503トンとなりました。

しかし、宅配荷物の増加に伴う軽自動車の増車により、前年度のCO<sub>2</sub>排出量を上回る結果となりました。これまでの取り組みを精査し、追加施策を検討してまいります。



WWF世界会議

■ 2002—2006年度CO<sub>2</sub>排出量

(単位:t-CO<sub>2</sub>)

	軽油	ガソリン (ハイオク含む)	天然ガス	電力	合計
2002年度	244,552	18,780	5,810	97,477	366,619
2006年度	207,515	25,893	24,300	98,407	356,116
増減 (06-02年)	▲37,037	7,113	18,490	930	▲10,503
対比 (06-02年)	84.86%	137.88%	418.25%	100.95%	97.14%

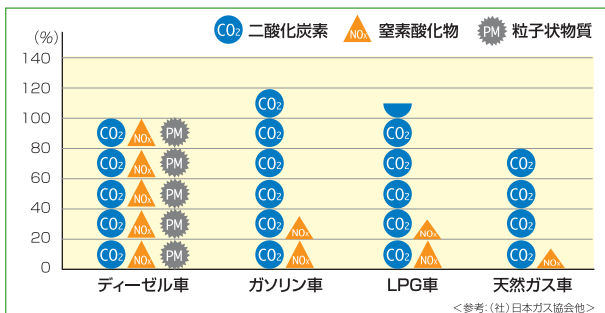
※クライメート・セイバーズ・プログラムの取り組みを開始した2002年度を基準としています。  
 ※CO<sub>2</sub>排出係数:環境省2002年12月19日発表「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」に基づく。  
 ※2002年度のベースライン算出の集計範囲(佐川急便施設内に併設するグループ会社や外部テナント分の電力、燃料外販分を含んだ範囲)に合わせた数値で算出しています。



## 環境にやさしい天然ガス自動車

天然ガス自動車は、天然ガス（都市ガス）を燃料としており、一般的なディーゼル車と比べて、CO<sub>2</sub>やNO<sub>x</sub>の排出量が少なく、PMは全く排出しません。

### ■ 排出ガスの性状比較（ディーゼル車を100とする）



NO<sub>x</sub>…Nitrogen Oxide 窒素酸化物（光化学スモッグや酸性雨などを引き起こす大気汚染原因物質とされる）  
PM…Particulate Matter 粒子状物質（ぜんそくや気管支炎を引き起こすとされる）

## 天然ガス充填所の整備

天然ガス自動車を全国各地で大量に導入しようとする、インフラの充実が絶対条件となります。しかし、天然ガスを充填できるエコ・ステーションが不足していることから、佐川急便では独自に天然ガス充填所を設置することで天然ガス自動車の大量導入を進めています。

2006年9月には佐川急便豊田店に7ヶ所目となる自家用天然ガス充填所をオープンしました。



佐川急便豊田店の天然ガス充填所

## 天然ガス自動車導入計画と実績

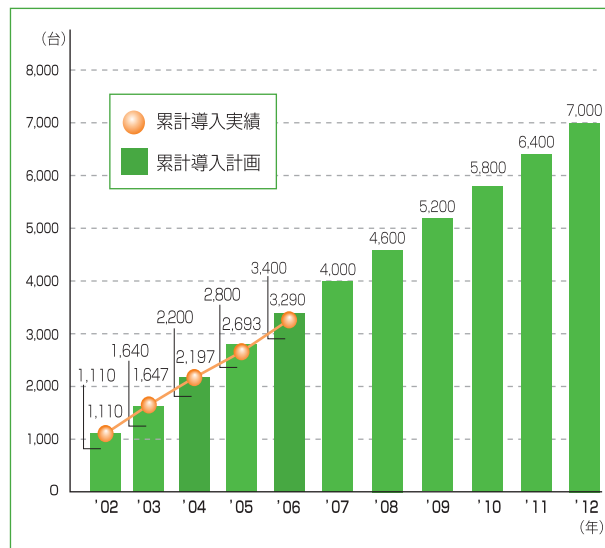
2006年8月に天然ガス自動車の導入台数が3,000台を突破しました。これは日本全国の天然ガストラック普及台数の約24%にあたり、民間企業では最も多い台数となります。

しかし、2006年度での導入台数3,290台は、導入計画の目標である3,400台を下回りました。これは、天然ガス充填所（エコ・ステーション）の普及が予測していたよりも遅れていることが大きな要因となっています。

この対策として、佐川急便でも独自に天然ガス充填所の設置を推進していますが、まだまだインフラの整備が不十分であると考えています。

事業者が独自に設置する天然ガス充填所は、設置した事業者しか充填できない決まりとなっているため、天然ガス自動車の普及に向けて、公共利用が可能なエコ・ステーションがさらに普及することを期待しています。

### ■ 導入計画と実績（2007年3月現在）



## 低公害車化宣言を達成

京都市が推進する、グリーン配送の実践による大気汚染の改善と地球温暖化の防止を目的とした「京都市都心部（まちなか）グリーン配送推進協議会」において、佐川急便は2006年度中に対象地域となる京都市都心部に配置する車両全てを天然ガス自動車に切り替える宣言をしました。

2006年度中に対象地域を集配する57台の車両すべてを天然ガス自動車に切り替えることを完了し、宣言を達成しました。



佐川急便京都店の天然ガス自動車

## \* Topic

### 第4回日本環境経営大賞 表彰委員会特別賞を受賞

三重県主催の「第4回日本環境経営大賞」において、表彰委員会特別賞を受賞しました。表彰委員会特別賞は、前年の受賞からさらに実績に積み上げがあった企業に対して贈られるもので、「クライメート・セイバーズ・プログラム」における天然ガス自動車の導入など、着実に環境経営を推進していることを評価されての受賞となりました。



# 輸送の効率化による環境対策

「環境負荷の小さい輸送」を目指し、トラックに頼っていた輸送形態からの転換や、輸送を効率化することによる輸送回数の軽減など、さまざまな可能性を追求し、環境負荷低減に取り組んでいます。

## モーダルシフトの推進

佐川急便では、輸送をトラックのみに頼るのではなく、環境負荷の小さい鉄道や船舶などへ輸送手段を切り替え、複合的に組み合わせて輸送するモーダルシフトを推進しています。

特に日本の大動脈であり、交通量が最も多く、環境負荷の大きい東京-大阪間では、電車型特急コンテナ列車「スーパーレールカーゴ」を活用し、東京-大阪間の輸送量の約10%をまかっています。このスーパーレールカーゴは、国土交通省の実証実験から誕生したもので、日本貨物鉄道株式会社と共同開発し、佐川急便が全編成を借り切って宅配便輸送に使用しています。

スーパーレールカーゴ以外にも鉄道輸送、船舶輸送を積極的に活用することにより、トラック輸送の削減による環境負荷低減と同時に、交通事故防止や長距離運転による労務問題の解消にもつながっています。

### モーダルシフトによる効果(2006年度)

	年間減便数 (10トン換算) (台)	CO <sub>2</sub> 削減量 (t-CO <sub>2</sub> )
スーパーレールカーゴ	16,407	12,874
鉄道輸送(スーパーレールカーゴ以外)	26,693	47,662
フェリー輸送	39,760	31,437
合計	82,860	91,973

※国土交通省出典:貨物輸送機関の二酸化炭素排出原単位(2001年度)より算出  
※2006年度における実質的な削減量ではなく、モーダルシフトを行わなかった場合の環境負荷を効果として算出

### ■ スーパーレールカーゴの活用

スーパーレールカーゴは毎日深夜に16両編成(31フィートコンテナを28個搭載)の列車を東京-大阪間で上り下り各1本運行しており、東京-大阪間を約6時間で結び、積載量は往復で10トントラック56台分に相当します。

このスーパーレールカーゴの活用により、大型トラックによるCO<sub>2</sub>排出量を大幅に削減し、環境負荷低減に直接的な効果を発揮しています。



スーパーレールカーゴ



コンテナの積み降ろしをする  
トップリフター



スーパーレールカーゴ専用コンテナトラック

## グリーン物流パートナーシップ会議への参加

2004年12月に経済産業省、国土交通省、(社)日本経済団体連合会、(社)日本物流団体連合会、(社)日本ロジスティクスシステム協会によって「グリーン物流パートナーシップ会議」が発足しました。これは、京都議定書の目標達成に向けて荷主企業と物流事業者が連携をとって物流分野におけるCO<sub>2</sub>排出量の抑制・削減を図ることを目的として設立された会議で、佐川急便はキックオフから参加しています。荷主企業と物流事業者が共に連携をとり、行政のバックアップを得ながら、お互いが理解を深めることによって、CO<sub>2</sub>削減へ向けてより高いレベルの目標に進めるのではないかと考えています。

### \* Topic

#### シンボルマークの名づけ親に

グリーン物流パートナーシップ会議のシンボルマークの愛称に、応募総数479通の中から、当グループの社員が考案した「ロジ君、エコちゃん」が採用されました。



シンボルマーク「ロジ君」「エコちゃん」



佐川急便本社  
竹下 彩

## 佐川流通センターによる環境負荷低減

佐川グローバルロジスティクスが運営・管理する「佐川流通センター（SRC）」では、お客さまの商品を入荷・一時保管・検品・値付などの物流加工から出荷までをトータルにサポートする機能を持ち、一元管理による徹底した合理化を進めています。お客さまはSRCを利用いただくことによって、物流にかかわる手間の簡略化と、コスト削減が可能となります。

さらに、環境面においても作業工程ごとの無駄な輸送を削減できることから、環境負荷低減を実現しています。

2007年3月現在、32ヶ所のSRCと30ヶ所の営業所を活用

して、2,200を超えるお客さまのCO<sub>2</sub>排出量の削減に貢献しています。

### 佐川流通センターでの輸送フロー図

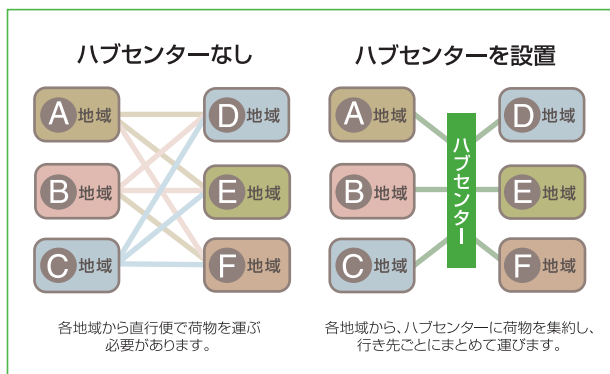


## ハブセンターによる輸送の効率化

輸送を支えるネットワークづくりの一環として、大規模な荷物の集約施設である「ハブセンター」を設置して輸送の効率化を推進しています。

荷物を一旦ハブセンターに集約し、再び行き先ごとに仕分け

### ハブセンター利用による輸送フロー図



ることで、積載率を向上させ、トラック便数を削減することを可能にしました。これにより、トラックの排出ガスを大幅に削減しており、大気汚染物質やCO<sub>2</sub>排出量の削減につながっています。

現在では、国内に4ヶ所（西日本ハブセンター、中部ハブセンター、久喜センター、Tokyoビッグベイ）のハブセンターを設置しており、さらなる車両運行の効率化と積載率の向上による環境負荷低減を目指しています。



Tokyoビッグベイ

自動仕分け機

## 車両を使用しないサービスセンターの活用

交通量が多く、駐車スペースが少ない東京都内や大阪市内などの都心部を中心に、配送車両を持たない「サービスセンター」を設置し、台車や自転車を用いた集荷・配達を行っています。これにより、交通渋滞の解消のほか、駐車場所を探すための不要な走行がなくなるため、無駄な時間を省け、また無駄な燃料消費も抑えられ、環境負荷の削減にも貢献しています。

また、道路交通法の一部が改正され、違法駐車に対する取り組みが厳しくなりました。私たち物流業者への影響は大変大きいものですが、そのような状況でもこの車両を使用しないサービスセンターは大きな力を発揮しています。

2007年3月現在、全国158ヶ所にサービスセンターを設置しており、2007年度では58ヶ所の設置を予定しています。

### \* Topic

#### 商店街を駆ける三輪自転車

名古屋の下町、大須に位置する「大須3丁目サービスセンター」では、三輪自転車を利用した配達を展開しています。年末の商店街はクリスマスイルミネーションに彩られ、華やかな雰囲気が漂います。その中を駆ける三輪自転車は、さながら青色のサンタクロースのようです。





# 車両に対する環境配慮

車両への環境配慮は排気ガスだけではなく、車体の製造を担う佐川ギャラクシーモーターズでは、環境に配慮した「ECO車体」を開発し展開しています。

## ECO車体の採用

佐川ギャラクシーモーターズでは、2003年6月より地球環境への配慮、ドライバーの荷台作業環境改善を考慮した「ECO車体」を開発し展開しています。

2006年度の架装台数は1,576台となり、累計出荷台数は5,000台を超えました。

また、廃プラスチックや古紙として再利用されることの少ないラミネート紙や感熱紙などを細かく刻み、樹脂で固めた再利用可能なリサイクルボードの採用に向けて、検証を行っています。

### ECO車体の主な概要

#### リサイクル樹脂材料使用内装材

ボデーの内装材として使用しているボードは、リサイクル樹脂でできています。原料にはカップ麺容器の製造工程から出る廃材を100%使用しています。

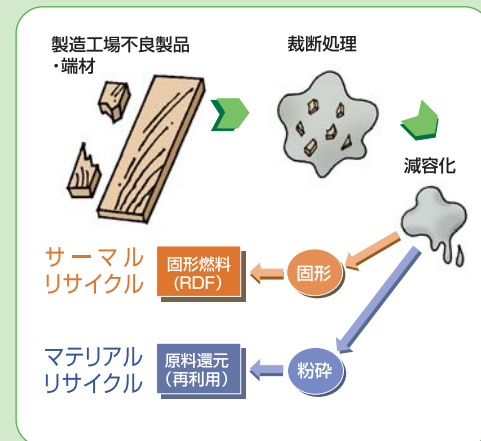
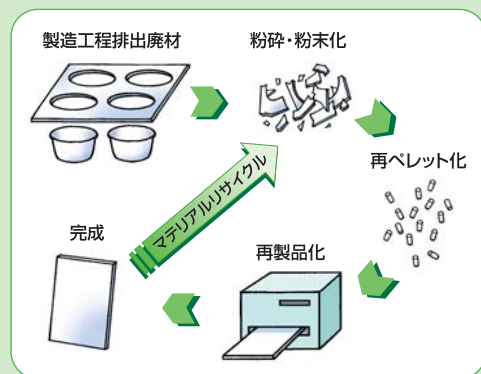
このボードの採用により、2006年度は約100トンの木材の使用を削減しました。



#### ノンフロン発泡断熱材

ECO車体に使用しているサンドイッチパネルには、ノンフロン発泡断熱材を使用しています。ノンフロン発泡断熱材は、解体時にもフロンガスを大気中に放出しない素材です。また優れた断熱性能を持っているため、夏場など荷台の温度変化を抑えることができ、ドライバーの作業環境も大きく改善されます。

従来のフロンガス断熱材にかわり、ノンフロン断熱材を使用することにより年間使用量約1.4トンのフロンガスの使用が削減できます。



### 車体製造の流れ(概要)



シャシ入庫



ボデー組み立て



看板塗装



完成

# 施設における環境配慮

全国各地に展開する佐川急便の営業店は、環境に配慮したさまざまな工夫をしている環境配慮型施設です。

## 新設店の建設基準

佐川急便では、「人・地球・環境への負荷軽減」をテーマに、物流施設のあるべき姿を実現するための独自の建設基準を策定しています。

### ■ 建設基準（モジュール）

- ① 経済性（ローコスト化）  
建設・管理・運用面において作業効率の向上とローコスト化を目指す。
- ② 社会性（国際情勢の取り込み）  
環境への負荷を低減し、社会への責任を果たしながら、企業PRを織り込んだ地域貢献・地域共生を実現する施設を目指す。
- ③ 人間性（働きやすさの追求）  
お客さまの安心とサービスの充実を図るとともに、安全でステータスの高い施設を目指す。

## 太陽光発電システムの導入

2003年度より自然エネルギーの利用による地球環境保全活動の一環として、太陽光発電システムの導入を推進しています。2006年度は、佐川急便天理店、柏B店、豊田店、八幡西店、加西店、仙台泉店、やんばる店の計7ヶ所に導入しました。

これにより、16ヶ所の営業店で合計300kWの太陽電池容量を備えた設備となり、物流業界では最大規模の太陽光発電システムを稼働させています。



太陽光発電システム



運転状況を確認できる表示パネル

## 佐川急便豊田店の事例

2006年9月に営業を開始した豊田店は、建築基準に基づき、環境に配慮した設計が施されています。

### ■ 天然ガス充填所の設置

佐川急便で7ヶ所目となる天然ガス充填所を設置しています。豊田店のほぼ全ての営業車両がここで燃料補給をします。

### ■ 太陽光発電システムの設置

佐川急便で10ヶ所目となる太陽光発電システムを設置しています。10kWの太陽電池を備え、天然ガス充填機の電力としても利用しています。

### ■ 騒音対策

近隣への騒音対策として、荷物搬送用のフリーローラーに樹脂ローラーを採用しています。また、構内の業務放送用スピーカーには低音スピーカーを内部に向けて設置しています。



天然ガス充填所、太陽光発電システムなどを備えた豊田店

佐川急便豊田店は、東名高速道路豊田I.C.より車で5分のところに位置し、集配エリアの豊田市は、世界的にも有名な「クルマの町」です。施設面では屋上に太陽光発電システムを設置しています。また、構内には天然ガス充填所を設置するほか、2トン、4トンの集配車を全て

天然ガス自動車（一部ハイブリッド車）にするなど、環境に配慮した営業店となっています。佐川急便をひっぱり続ける一番手の営業店を目指し、一丸となって頑張っています！

佐川急便 豊田店  
店長 内村 登志男

✿ Voice



# 循環型社会を目指して

循環型社会の実現には、資源の循環が必要不可欠です。SGホールディングスグループは、製品ライフサイクルの循環、すなわち資源の循環をサポートしています。

## 循環型社会における物流事業者の役割

人間の身体が動脈―静脈による血液循環で維持されているように、地球環境を維持するためにも資源を循環させる仕組みづくりが重要となります。

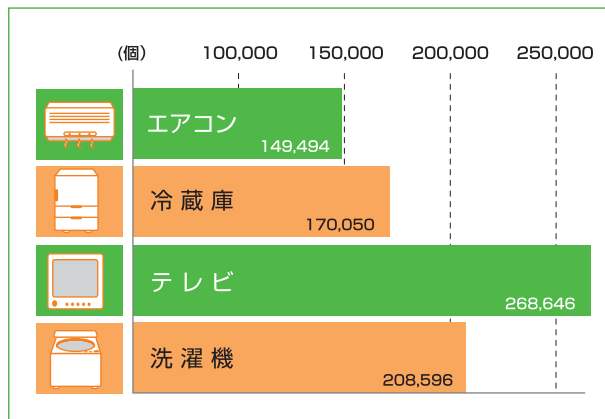
物流は、「生産」から「流通」、「流通」から「消費」、「回収」、「再資源化」、そしてまた「生産」へと移動するモノの流れを支えていることから、循環型社会の構築の要を担っています。



## 家電リサイクル回収品の運搬

佐川急便では、「家電リサイクル法」により、回収が義務付けられている家電製品のリサイクルを支援するために、家電メーカーからの依頼を受けて近畿・中部・四国にある佐川急便の営業店24ヶ所が指定引取業者となり、再商品化などの施設へ搬送業務を行っています。

### 家電リサイクル取扱実績(2006年度実績)



## 車両リサイクルの取り組み

佐川急便で使用済みになった車体は佐川ギャラクシーモーターズにて適切に処理しています。

### 車両フロン

佐川ギャラクシーモーターズ全拠点にてフロンガス回収装置を配置しており、整備作業時および車両廃棄時にフロンガスを大気放ししないよう回収し、破壊処理を行っています。2006年度は42kgのフロンガスを回収しました。

### 車両エンジンオイル

佐川ギャラクシーモーターズでは、エンジンオイルの交換で不要になった廃エンジンオイルの回収を行っており、産業廃棄物扱いから有価物扱いとしてリサイクルの推進を始めています。2006年度は322,883ℓのエンジンオイルをリサイクルしました。

### 廃タイヤ

使用することが出来なくなったタイヤは、最終処分業者にて加工利用・熱利用・原型利用などのリサイクルを行います。2006年度は71,718本の廃タイヤを回収しました。

## 「飛脚パソコン便」

パソコン修理の際に、パソコンメーカーとユーザー間の輸送を行う「飛脚パソコン便」を展開しています。

これは、運輸業界で初めて<sup>※1</sup>3Rに対応したサービスで、輸送には繰り返し使用することのできるオリジナルの梱包資材「SAGAWA soft air package」を使用しています。

輸送品質の高さと、従来の梱包のようにごみを出さない点を高く評価いただき、2006年度は、約10万件のご利用をいただいています。



飛脚パソコン便  
オリジナル梱包材

パソコンのサイズに合わせて  
6種類のボックスを用意しています



## その他の環境配慮

環境への負荷が少ない製品やサービスを優先的に購入する「グリーン購入」を推進しています。その他の取り組みにおいても、環境への配慮を心掛けた取り組みを行っています。

### エコユニフォームの採用

SGホールディングスグループでは、グリーン購入を推進しています。中でも、当グループのユニフォームには、ペットボトルを再利用した再生ポリエステルを使用しているエコマーク認定品を採用しています。

2006年度に製造したユニフォームは約18万5,000着で、約53万本のペットボトルを再利用したことになります。

2007年度より、ユニフォームをリニューアルしましたが、従来の素材を使用し、引き続きエコマークの認定を受けています。

また、セールスドライバーが使用している軍手も、エコマーク認定品を採用しており、2006年度は、約26万双を利用しました。



### ■ エコユニフォームができるまで



### 配達済み送り状のリサイクル

佐川急便で毎日大量に発生する配達済み送り状は、全て佐川コンピューター・システムの関東・関西の2拠点に集められ、製紙会社の溶解工場でも再利用されています。

2006年度は約1,788トンの配達済み送り状を、段ボールや紙の原材料としてリサイクルしました。



### 廃棄物の削減にむけて

事業活動で生じるゴミを可能な限り削減する取り組みを行っています。しかし、十分な成果が得られていないことから、2007年度より環境方針に3Rを推進する決意を表しました。従来の取り組みを見直し、より効果的な施策を検討することで、ゴミの抑制と再資源化の推進を行っています。

### 水質汚染・土壌汚染の防止対策

車両を主な事業活動で使用する当グループでは、「大気」への影響を最重要課題と捉え、環境保全活動を展開していますが、水質汚染や土壌汚染の防止にも努めています。自社で所有する燃料用地下貯蔵タンクや地下に敷設している配管、また給油所や厨房内の油水分離槽についても専門業者による点検や清掃作業、廃棄物処理などを実施しています。

### \* Topic

#### ゴミ分別の工夫

ゴミ分別の際に悩むことはないでしょうか？捨てようとしているゴミは何でできていて、どの分別ボックスに入れたらいいのか判断できないことがあると思います。

佐川コンピューター・システムの東北センターでは、ゴミの実物サンプルを分別ボックスの前に掲示することで、分別の精度を上げる取り組みをしています。



# SGホールディングスグループ環境行動

グループ全従業員の環境保全に対する意識の高揚を目的として、環境行動指針を制定し、年間を通じた活動を行っています。

## 2006年度環境行動の取り組み

環境保全への取り組みは、ハード(物的対応)だけではなく、それを扱う従業員が高い意識を持たなければ十分な効果が得られません。SGホールディングスグループ約4万人の従業員一人ひとりが、実践することで環境意識の高揚を図る取り組みが「環境行動」です。

2003年から開始したこの取り組みは、毎年形を変えながら、年間を通して活動する参加型のプログラムです。

### 環境行動実施項目(2006年度)

環境行動実施項目
1 アイドリンクストップ検証
2 クリーンアップ運動
3 グリーン運動 ~全国緑化活動~
4 環境推進店表彰
5 「さがわの森」環境研修
6 省エネルギー運動(夏季)
7 環境ポスターコンクール
8 環境標語コンクール
9 エコ安全ドライブ推進運動
10 環境・社会活動教育推進運動
11 省エネルギー運動(冬季)
12 ゴミ分別徹底運動



2006年度環境行動ポスター

### 環境標語コンクール

グループ全社員を対象にした「環境標語」を募集し、優秀な作品を表彰しています。2006年度は『地球環境保全』をテーマに13,221点の応募がありました。

#### 環境標語コンクール金賞

**エコロジー 未来の約束 自分から**

(佐川急便 西大阪店 佐藤 茂)

優秀な作品に選ばれたポスター・標語は、オリジナルクリアフォルダーのデザインに採用し、社内外での環境啓発活動に活用しています。

### 環境推進店表彰

一年間の環境保全に関する活動(省エネ・省資源・教育・啓発など)が他の模範となる事業所を表彰し、広く公表しています。2006年度は佐川急便の平塚店が最優秀賞に選ばれました。エアコンの設定温度の管理やエコ安全ドライブの推進、地域とのパートナーシップなどの地道な取り組みが評価されての受賞となりました。



平塚店は3年連続の最優秀賞を受賞

### クリーンアップ運動

従業員一人ひとりのゴミ問題に対する意識の向上を図るとともに、地域の美化推進に貢献することを目的として、グループ全従業員が地元自治体や企業、NPO等と協同で事業所近隣の清掃活動を行っています。

2006年度は、のべ39,370名の従業員が参加しました。



恒例の活動となり、従業員も積極的に参加をしてくれました

普段は気付かないところにもたくさんのゴミが落ちていました

### 環境ポスターコンクール

家庭で地球環境について考える機会を持つことを目的として、グループ全社員の子女を対象とした「環境ポスターコンクール」を開催しています。2006年度は『地球(アース(明日))のためにできること』をテーマに、自然・地球などに関連する1,662点の応募がありました。



最優秀賞作品



最優秀賞の宮城豊君



優秀賞の2作品

# 自然との共生

SGホールディングスグループは、環境負荷低減への取り組みだけでなく、「自然との共生」が重要であると考え、自然から学び、自然との共生に向けた取り組みを行っています。

## 「さがわの森」環境研修

SGホールディングスグループが、四国に保有する森林「さがわの森」を活用し、森林に関する講義や間伐などの森林保護管理を体験する環境研修を実施しています。この研修は、森林の役割や



健康な森林にするためには手入れが必要であることなどを学び、環境保全に対する意識が向上するとともに、自然が持つエネルギーを感じる場となっています。

「さがわの森」環境研修に、第一回目から参加していますが、年々研修内容が「進化」していると感じています。

また、間伐など、普段ではできない体験ができることも、この研修の醍醐味だと思います。研修施設の裏手には、きれいな川が流れていてそこに現われる無数のホタルを見ながら環境問題を考えると、改めて環境保全への強い意識が芽生えます。

今後はこういった「水の資源」の活用も考えられてはでしょうか。

### \*Voice



京都女子大学  
現代社会学部  
教授 榎村 久子様

## 森林のさまざまな活用を検討

東京都八王子市に50haの森林を保有しており、環境省の「100年の国づくり」構想に共感して、この森林を有効活用しようと考えています。例えば地域の若者たちとの協働による森づくりや、森林浴、次世代を担



八王子の森

う子どもたちが体験学習をできるような空間づくりを進めるなどの計画を立てています。

さらに、循環型社会を実現するため、この森林から出た木材をバイオマスエネルギーに転換し、自動車燃料に活用するなど、企業が所有する森林の新しい活用モデルを構築し、自然との共生の新たな形を提案していきたいと考えています。

日本は世界でも有数の自然資源の輸入大国であり、私たちの生活は世界の国々の生物多様性に支えられていると言えます。そうした認識のもと、国内における自然資源の保全とその有効活用を進めることが必要です。

このような意味で、SGホールディングスが東京都の八王子市における森林において、二酸化炭素の吸収源、子どもたちの体験学習の場、さらにはバイ

オフェューエルとしての活用など、先進的な取り組みを進められていることは素晴らしいことだと思います。

日本政府は、2010年の生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)の開催国として立候補しています。SGホールディングスの取り組みを、この機会に世界における新たな「自然との共生」のモデルとして発信して頂きたいと思います。

### \*Voice



環境省自然環境局  
生物多様性地球戦略企画室  
室長補佐 鈴木 渉様

## 間伐材の有効利用

佐川林業はSGホールディングスグループが保有する森林の間伐材を環境啓発の観点からも有効活用を検討し、写真やポストカード、卓上カレンダーなどを挟むオリジナル「ポストカードホルダー」を製作しています。

今後も、森林保全の一環として間伐材を有効利用し、環境啓発につながる取り組みを展開していきます。



間伐材を有効利用しています  
(佐川急便ロゴバージョン)



使用例(卓上カレンダー)



# 環境啓発への取り組み

地球環境保全には、企業の取り組みだけでは足りません。地球規模での取り組みを実現するために、次世代を担う子どもたちを中心に、広く一般に環境啓発活動を行っています。

## 社会に向けた環境啓発活動

### 小学生への環境授業

京都商工会議所が主催する「小学生への環境学習事業」に参画し、社員が講師となって地球環境の大切さと、SGホールディングスグループの環境保全活動についての授業を行っています。実際に天然ガストラックを用いて行うディーゼルトラックとの排気ガスの比較実験では、好奇心旺盛な子どもたちから「どうして黒くならないの?」という質問が投げかけられるなど、子どもたちと触れ合う場となっています。



天然ガス自動車とディーゼル自動車の排気ガスを比較  
天然ガス自動車からは黒煙が出ません

### 家庭向け啓発冊子の配布

2004年度より、環境保全活動を社内での活動だけにとどめず、社員が家族とも実践できるように簡単な省エネ活動をまとめた小冊子を毎年発行し、グループ全社員の家庭をはじめ環境イベントや講演会などで配布しています。

2006年度は「チーム・マイナス6%」が推奨する6つのアクションをテーマに、家庭で実践できる取り組みをマンガ形式で子どもたちにもわかりやすく紹介しています。



2006年版はマンガ形式で作成しました

### 「チーム・マイナス6%」への参加

環境省が主催する温室効果ガス排出量6%削減を目指した国民的プロジェクト「チーム・マイナス6%」に参加しています。7月から9月の「夏季省エネルギー運動」実施期間中は「COOL BIZ」バッジを着用し、省エネルギー活動の実践と啓発活動に活用しています。

また、佐川急便大阪鶴見店の屋上にはチーム・マイナス6%のロゴを使用した大きな看板を掲げ、高速道路を走行する自動車の運転手に向けた啓発活動を行っています。



近畿自動車道を通る自動車に向けて「CO<sub>2</sub>-6%削減」を呼びかけています。

### 「我が家の環境大臣事業」への参加

家庭を中心としたエコライフを推進する、環境省の「我が家の環境大臣事業」にグループ全社員で参加しています。

社員とその家族に対する、環境問題への意識の高揚を図る取り組みのレポートについて、エコファミリーレポート優秀賞を受賞しました。



エコファミリーレポート授賞式

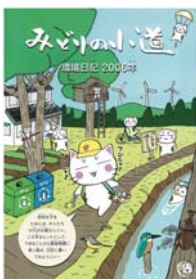


エコファミリーのロゴ

### 「みどりの小道 環境日記」への協賛

(財)グリーンクロスジャパンが主催する「みどりの小道環境日記」事業に協賛しています。

環境教育の一環として多くの小学校で使用されている「みどりの小道環境日記2006年」では、昨年に引き続き佐川急便の環境保全活動を紹介しました。



みどりの小道環境日記

## ※ Topic

### 物流環境大賞を受賞

(社)日本物流団体連合会が主催する「第7回物流環境大賞」において、物流環境大賞を受賞しました。これは物流部門における環境保全の推進や環境意識の高揚を図り、物流の健全な発展に貢献した団体・企業または個人を表彰するものです。低公害車の大量導入やモーダルシフトの推進に加え、広範な環境啓発活動への取り組みが評価されての受賞となりました。



## ■ JOC (財団法人 日本オリンピック委員会) とのパートナーシップ

地球環境の悪化により、スポーツ界では従来どおりの方法では実施が困難な種目がでてきました。特にウインタースポーツへの影響は大きく、深刻な問題になりつつあります。

佐川急便はJOCの環境オフィシャルパートナーとして、JOCが取り組む環境活動に参加し、スポーツを通じた環境啓発活動を行っています。2003年3月に環境オフィシャルパートナーに認定されて以来、オリンピックデーランやオリンピックコンサートなど、JOCが開催するさまざまなイベントにおいて、オリンピック会場での環境活動の取り組みや、佐川急便の環境活動などを紹介しています。

スポーツと環境のかかわりを紹介することで、来場された方々に環境保全活動の大切さを伝えていきます。



快晴の中開催されたオリンピックデーラン、オリンピックフェスティバル

## オリンピックデーラン

オリンピックデーランは、オリンピック選手と一緒にジョギングをして、スポーツすることの楽しさを知ってもらうための活動です。

その中でも年に一度、体育の日に開催されるオリンピックフェスティバルは、最も規模の大きい大会です。2006年は、過去最多の約25,000人の来場者となり、佐川急便ブースでは自転車発電を来場者に体感いただき、エネルギーの大切さを伝える催しや、環境問題についてゲームをまじえながら楽しく学ぶ催しにより、地球環境保全に向けた啓発活動を行いました。



## ■ 環境イベントへの取り組み

社内だけの環境保全活動にとどまらず、地方自治体や省庁が主催する環境イベントへも積極的に出展を行い、広く一般に向けた環境啓発活動を実施しています。

当グループの営業所、事業所においても各地域で開催されるイベントに積極的に参加しており、なかには、日頃の環境保全活動を評価され、地域住民の方からの推薦により出展したイベントもあります。

## ■ 主な出展イベント (2006年度)

イベント名	開催日	開催場所	主催
エコライフ・フェア2006	6月3日～4日	東京都 都立代々木公園	環境省 他
環境フェスティバル21	11月11日～12日	大阪府 万博記念公園	大阪府 他
京都環境フェスティバル2006	12月9日～10日	京都府 京都府総合見本市会館	京都府 他
エコプロダクツ2006	12月14日～16日	東京都 東京ビッグサイト	日本経済新聞社 他
ENEX2007	2007年1月31日～2月2日	東京都 東京ビッグサイト	(財)省エネルギーセンター



環境パネルクイズ

工作コーナー

## ■ 講演・セミナー・シンポジウムへの取り組み

10月25日に横浜国立大学において開催された公開講座で、SGホールディングス代表取締役会長兼社長の栗和田栄一が講師を務めました。「お客さまからわくわくするようなイメージを持っていただけるよう頑張りたい」と、佐川急便の環境保全活動をはじめとしたCSR活動について紹介しました。

この他にも、さまざまなセミナーやシンポジウムで講演する機会をいただき、地球環境保全の大切さについて多くの方に紹介することができました。



横浜国立大学公開講座のようす

## ■ 主な講演・セミナー・シンポジウム (2006年度)

講演日	講演・セミナー・シンポジウム	主催
4月14日	平成18年度環境省新採用職員研修	環境省
5月10日	第5回日経CSRシンポジウム	日本経済新聞社
8月25日	土曜フォーラム「動き出した、グリーン物流社会への国民運動」	グリーンロジスティクスシンポジウム実行委員会(後援:経産省等)
9月29日	第3回物流環境管理士養成講座	(社)日本物流団体連合会
10月25日	横浜国立大学公開講座	環境を考える経済人の会21
11月16日	第6回日経CSRシンポジウム	日本経済新聞社
11月27日	国土交通大学校	国土交通省
12月15日	グリーン物流とエコポイントセミナー	経済産業省/国土交通省
2月5日	企業活動と省エネルギーシンポジウム	GLOBE Japan
2月6日	平成18年度物流講演会	国土交通省
2月15日	JICA地球温暖化研修	(社)海外環境協力センター
2月17日	地球温暖化フォーラム	毎日新聞社
3月12日	アジア太平洋コースキャンピング研修	京都商工会議所

# 環境活動を推進するための体制づくり

佐川急便では、より高いレベルの環境活動を推進するために、環境マネジメントシステムや環境会計を導入しています。目的を持った行動と結果の検証により、さらなる活動へつなげる体制を整備しています。

## 環境保全活動の目標と実績(2006年度)

### 2006年度環境目的・目標に対する実績

※1 部門	環境目的	目標
営業部	排出ガスによる地球環境負荷の低減	低公害車の導入
		サービスセンター設立による増車台数の抑制
	排出ガスの節減・省エネルギー化	モーダルシフト化への運用・研究
IT戦略部	省資源・省エネルギーによる地球環境負荷の低減	ペーパーレス化の推進
国際業務部	2008年4月から海外における国内同様の環境活動の実施	海外従業員への環境啓発活動の継続
総務・人事部	廃棄物の排出量低減	システムの維持・推進、データ収集、廃棄物への意識向上
	省資源化の推進	ペーパーレス化の推進
	購入する物品、購入システム見直しによる地球環境負荷の低減	環境に配慮した調達システムの維持・推進
	統一給与システムの運用による省資源化	ペーパーレス化の推進
労務運行管理部	安全かつ環境に優しいエコ安全ドライブの推進	エコ安全ドライブ指導員の育成
	環境保全活動の啓発	新入社員に対する環境初期教育(エコドライブ含む)の推進
CSR環境推進部	地球温暖化防止	太陽光発電システムの導入推進
	排出ガスによる地球環境負荷の低減	自家用天然ガス充填所新設推進
	全社的な取り組みによる環境啓発	「SGホールディングスグループ環境行動」実施
財務経理部	省資源の推進	ペーパーレス化の推進
経営企画部	省資源の推進	精算書のペーパーレス化検討
広報部	ステークホルダーへの環境行動および活動の情報発信	環境問題、環境活動等を題材にした広報ツールの作成
マーケティング部	環境への取り組みによるコーポレートブランドの向上	コーポレートブランドにおける環境活動の寄与について研究
設備投資部	人・地球・環境への負荷低減	施設における環境配慮

※1 部門名称は、実施当時の名称を記載しています

### 2006年度サイト目的・目標に対しての実績

環境目的 ※は最終到達目標	2006年度目標		2006年度実績	達成/未達成
	目標	目標値		
電力使用量の削減 ※2012年度迄に2002年度比6%削減(年平均0.6%)	2005年度比1%削減	年間 922,478kW	847,636kW (2005年度比 約9%削減)	達成
コピー用紙使用量の削減 ※2007年度一人当たり年間使用枚数19,000枚	2005年度比2%削減	年間 3,093,125枚	2,690,000枚 (2005年度比 約18%削減)	達成
資源ごみ再利用の促進	分別、リサイクル		年間22,070kg リサイクル	



## ■ 外部認証を取得

2001年より佐川急便本社にてISO14001:2004の認証を受けています。より高いレベルの環境保全活動に向けて、体制の整備や実施目的・目標を設定し、達成度を検証しています。

また、2004年に佐川急便の9つの営業店が、グリーン経営認証を取得し、現場レベルでの環境保全に対する体制整備、エネルギー使用量の低減に向けた取り組みを行っています。



ISO14001 適合証明証  
(佐川急便 本社)



グリーン経営認証登録証  
(佐川急便 仙台店)

	目標値	実績/結果	達成/未達成
	CNG車導入台数 605台	621台導入	達成
	・サービスセンター 72店舗設立 ・増車抑制 202台	・サービスセンター 57店舗設立 ・増車抑制 82台	未達成
	鉄道、船舶輸送 年間合計80,869便 (2004年度比1.05%増)	鉄道、船舶輸送 年間合計71,709便	未達成
	請求書レス率 20% (請求書不要顧客件数/請求書発行顧客件数)	請求書レス率 13.25%	未達成
	海外で実施した環境活動の報告を受け、 海外従業員の環境意識促進状況を確認	海外3法人にてクリーンアップ活動を実施	達成
	佐川急便の営業店店長対象に意識向上会議 を開催	店長研修での廃棄物管理セミナー実施 【実施日】 ①4月21日(21名対象)、②10月6日(23名対象) 【内容】 当社における排出物処理への管理等	達成
	制作許可申請書のワークフロー化	全グループ完全ワークフロー化を実現(申請書約2,300枚の削減効果)	達成
	エコマーク認定の半袖ユニフォームを採用	121,097枚を採用	達成
	エコマーク認定の長袖ユニフォームを採用	63,781枚を採用	達成
	制服リサイクルシステムの構築	127,537枚のユニフォームをリサイクル	達成
	全国規模でのペーパーレス化実現	法定帳票(税務署提出用)および給与保存帳票のペーパーレス化を実現 (市区町村への給与支払報告を除き約9割をペーパーレス化)	達成
	エコ安全ドライブ指導員育成 400名以上	485名を育成	達成
	全新入社員への教育実施	2006年度新入社員5,254名が受講	達成
	新規導入 3件	計画の3件(豊田店、天理店、柏B店)竣工 計画外で4件(八幡西店、仙台泉店、加西店、やんばる店)竣工	達成
	新設 1件	9月21日 豊田店に竣工	達成
	計画に沿った環境行動の実施	計画した環境行動をすべて実施 (具体的な内容は、P40を参照)	達成
	コピー用紙購入枚数 2005年度比2%削減	5.4%の削減を実施	達成
	来年度のペーパーレス化に向けて要件を定義	請求系基幹システムリプレイス時の要件に、精算書のペーパーレス化を加味した	達成
	・社内報にて月1回の紹介 ・ニュースリリースで社外への積極的な広報活動	・社内報「飛脚」、「ふれあい」、「SG-Stage」にて環境関連情報を紹介 ・ニュースリリース:随時、報道関係機関に通知	達成
	・各種分析資料の管理 ・企業訪問の継続による情報収集	・ブランド総合調査の実施 ・各種セミナーへの参加 30回、ブランドマネジメントフォーラム参加 10回 ・他企業訪問 25社	達成
	建設中新設店8店舗で実施	自然光を利用した省エネルギー設計、太陽光発電システムの導入、建設リサイクル法に 準拠した廃棄物発生抑制、騒音に配慮した搬送設備・スピーカー設置を実施	達成

## ■ グループ各社での取り組み

SGホールディングスグループ各社においても環境への取り組みを推進し、地球環境保全に向けて活動を展開しています。

佐川急便以外では、佐川グローバルロジスティクス(本社、東京SRC、大井SRC)と佐川アドバンス(本社)にてISO14001を認証取得しており、さらなる範囲拡大に向けて取り組んでいます。

従来は、総合物流企業である佐川急便を中心に、地球環境保全に向けて積極的な取り組みを展開してまいりましたが、SGホールディングスグループ全体が同じ目標に向かって取り組み、「環境先進グループ」となれるよう努めてまいります。

## 環境会計

より効果的な環境経営実現のため、佐川急便では環境会計を導入しています。今後は、グループ全体への導入を推進し、指標設定やプロジェクトごとの分析などによる効果的な活用に向けて取り組んでいきます。

2006年度は、自家用天然ガス充填所の新設や太陽光発電システム、省エネ機器の導入に注力した結果、環境投資額

が約1.5億円、環境費用額が約67.1億円となり、前年度に比べ地球環境保全コストへの比重が高くなりました。

環境保全効果では、天然ガス自動車への切り替えによる軽油使用量の削減のほか、プロパンガスや水(上下水)使用においても削減効果が表れています。

### 環境保全コスト

(単位:百万円)

分類	主な取り組み内容	2005年度		2006年度		増減の主な要因
		環境投資	環境費用	環境投資	環境費用	
(1) 事業エリア内コスト		148	1,033	147	963	
内訳	①公害防止コスト	92	148	21	119	投資が減少しているのは、2005年度に実施した防音壁や光公害フェンス等の大規模投資を行わなかったため。費用については、酸化触媒装置義務化が3年目となり、新規取り付け・付け替えが昨年に比べて減少したことによる削減となった。
	②地球環境保全コスト	50	96	122	144	豊田店に自家用天然ガス充填所を新設したため、大幅な投資増加となっている。また、太陽光発電システムや省エネ機器の導入を昨年度より強化したため、投資・費用ともに増加した。
	③資源循環コスト	6	789	4	699	費用増加は、エンジンオイル、バッテリーリサイクルの推進によるもの。自動車リサイクル法施行2年目となり、自動車リサイクル関連費用は減少している。
(2) 上・下流コスト						
(3) 管理活動コスト	環境マネジメントシステム導入、グリーン経営推進、環境広告、環境教育、環境情報の開示		201	3	167	費用減少は、環境広告費の減少による。
(4) 研究開発コスト	ECO車体開発、飛脚グリーンメール開発		2		0	主な研究開発案件が低コストのものであったため。
(5) 社会活動コスト	国内外環境保全団体への寄付、啓発活動		189		194	全国各地で開催した環境セミナーにかかる費用が増加したため。
(6) 環境整備対応コスト	アスベスト対策		27		78	
(7) 安全対策コスト	安全対策としての車両点検、従業員教育、啓発活動		5,337		5,308	
合計		148	6,789	150	6,709	

### 環境保全効果

環境パフォーマンス指標	2005年度	2006年度	環境保全効果 (2006年度実績-2005年度実績)
軽油(kℓ)	82,816	78,945	-3,871
灯油(kℓ)	396	344	-52
重油(kℓ)	80	168	88
天然ガス(km <sup>3</sup> )	9,656	12,404	2,749
都市ガス(km <sup>3</sup> )	1,055	958	-97
プロパンガス(kg)	921,512	865,222	-56,290
ガソリン(kℓ)※ハイオク含む	8,932	11,151	2,219
電気(kWh)	23,347万	23,474万	127万
水(上水)(km <sup>3</sup> )	1,011	925	-86
水(下水)(km <sup>3</sup> )	1,011	922	-89
工業用水(上水)(km <sup>3</sup> )	-	9	-
工業用水(下水)(km <sup>3</sup> )	-	9	-
NOx(t)	1,474	234	-1,239
PM(t)	95	33	-62
ペットボトルリサイクル量(本)	-	-	532,871

環境保全効果は、2005年度比の単純増減で算出しています。  
 ・(注1) 天然ガス、都市ガスについては、供給会社からの請求書に記載された数値を集計しており、温度補正、圧力補正をしていない数値です。  
 ・(注2) 供給会社からの請求書に記載された数値(m<sup>3</sup>)を2.07kg/m<sup>3</sup>を使用し重量換算しています。  
 ・(注3) 工業用水については、2006年度から集計しています。  
 ・(注4) NOx、PM排出量は、トラックに関連するもののみ。また、2006年度より算定方法を見直しています。(国土交通省の定める車両型式ごとの排出係数を基に、車両ごとの走行距離から理論上の推定値を算出)  
 ・(注5) ペットボトルリサイクル数は、2006年度においてペットボトルを原料とするユニフォームの使用により、ペットボトルのリサイクルに貢献したと考えられる効果をペットボトル本数に換算して記載しています。(換算値:半袖2,426本/枚、長袖3,76本/枚)

### 環境保全効果に伴う経済効果

(単位:百万円)

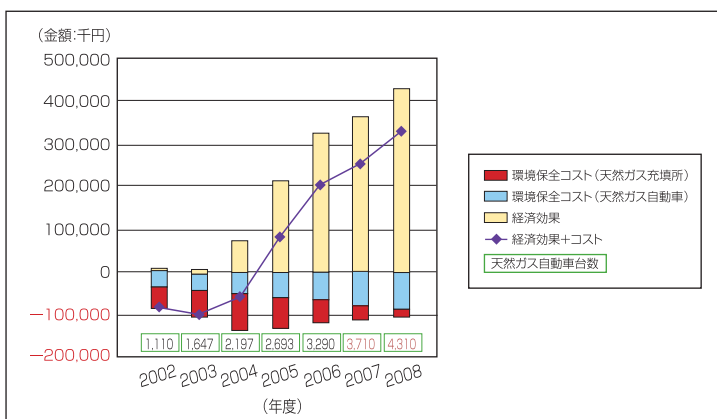
経済効果	金額
軽油使用量削減に伴う費用削減	362
灯油使用量削減に伴う費用削減	4
都市ガス使用量削減に伴う費用削減	8
プロパンガス使用量削減に伴う費用削減	5
水(上水)使用量削減に伴う費用削減	24

・環境保全効果に伴う経済効果は、2005年度比の数値を利用。  
 ・単価:佐川急便の購入価格を利用。

### 集計方法

- ・集計期間:2006年度(2006年3月21日~2007年3月20日)
- ・対象範囲:佐川急便株式会社単体(一部佐川ギャラクシーモーターズ株式会社を含む)
- ・参考としたガイドライン:環境省「環境会計ガイドライン2005年版」
- ・20万円以上の資産の取得を投資として計上しています。
- ・環境設備の減価償却は、4年間の定額償却で算出しています。
- ・人件費は、環境活動時間×佐川急便の平均人件費単価で算出しています。

## プロジェクト会計(天然ガス自動車導入による効果)



天然ガス自動車導入プロジェクトについて、費用対効果を算定・評価しました。

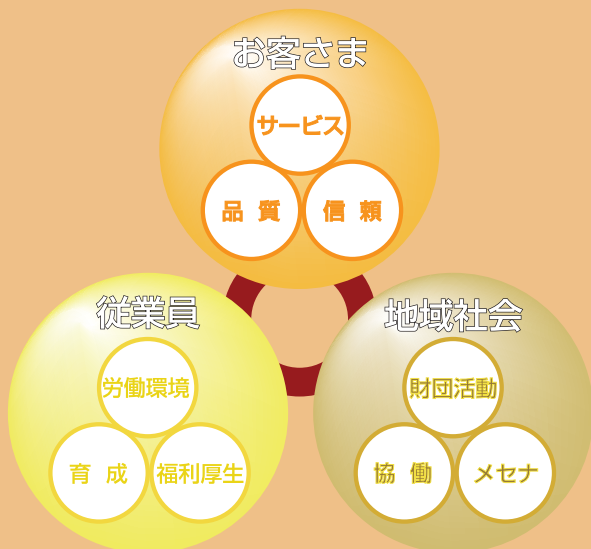
天然ガス自動車導入台数が2,500台を突破した2005年度に、軽油価格の高騰も受け、経済効果が車両や自家用天然ガス充填所への投資を上回る結果となっています。

(注1) 各年の環境保全コストの投資部分は補助金を引いた後の金額を4年で償却し、平準化しています。  
 天然ガス自動車の導入金額については、ディーゼル車との差額で計算しています。  
 (注2) ここでの経済効果は環境保全コストを加味せず、燃料と電気のみで計算しています。  
 (天然ガス使用金額+天然ガス充填に伴う電気使用にかかる金額)-ディーゼル車を使用したと仮定した場合の軽油金額  
 (注3) 2007年度、2008年度は、2006年度末時点での車両・スタント投資計画に基づいた推測値です。

# 社会とのかかわり

～人と人とのふれあい～

「物流」という社会インフラを支える企業グループとして、社会からより高い信頼を得られるよう、本業にそって「お客さま」、「従業員」、「地域社会」を尊重した取り組みを行っております。





# 従業員とともに

働く人々の尊厳を守り、平等に機会を与え、一人ひとりの多彩な能力を伸ばす人材育成に取り組む方針のもと、SGホールディングスグループは従業員とともに成長する企業でありたいと考えています。

## 人事方針

佐川急便にはパート・アルバイトを含み、35,648名(2007年3月20日現在)の従業員が在籍しています。

学歴や年齢にとらわれることなく、企業の財産である「人材」を尊重し、グループ全体の発展に向けた組織力の活性化を図るため、4つの制度を確立しています。

- 公正かつ納得性の高い評価制度
- 従業員のやる気を向上させる処遇制度
- 人材の最適配置を推進する制度
- 従業員の能力を向上させる制度

## 女性従業員の登用

これまで女性の採用は事務職系が中心でしたが、女性特有のきめ細やかなサービスなどがお客さまから好評を頂いており、営業系職においても積極的に採用を進めています。その結果、佐川急便の2006年度女性従業員の採用数は、



前年比316%と大幅な伸びとなっています。

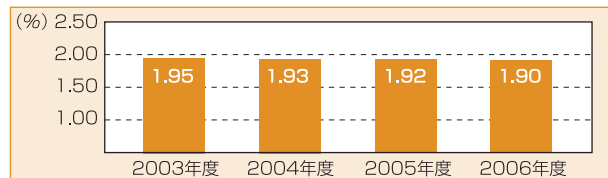
今後は、女性管理職の登用をさらに促進し、男女の区別なく働きやすい職場づくりに努めていきます。

## 雇用の促進

障がい者が真に自立できる社会を形成するためには、特定法人での集約雇用ではなく、健常者と同じフィールドで一丸となって業務に取り組み、ともに汗を流して苦労を分かち合っこそ、目標達成の喜びを共有することができると考えています。

今後このポリシーに基づき、ともに成長できる雇用促進への取り組みを進めていきます。

### 障がい者雇用率



社会とのかかわり

### \*Voice

今から8年前、なまけた自分を鍛えなおそうと、佐川急便に入社し、男性と同じ職場・同じユニフォームでセールスドライバーとして働いています。この仕事は、事故を起こすとお客さまに大変なご迷惑をおかけするので、体力も神経も使います。同時に、とてもやりがいのある仕事だと感じています。私は話すことがとても好きなので、お客さまと会話をするときがとても楽しいひと時です。これからも自分のため、親への恩返しのために、佐川急便でとことん仕事をしていきたいです。

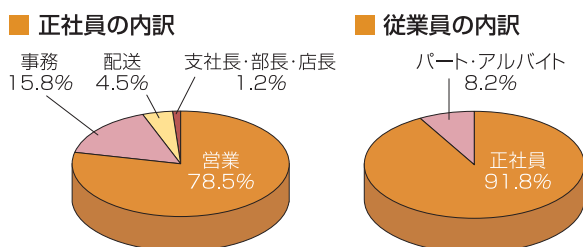


佐川急便  
金沢店  
戸田 由紀

## 労働力の内訳

佐川急便では、正社員の7割以上を営業職が占めることから、営業力が大きな原動力となっています。

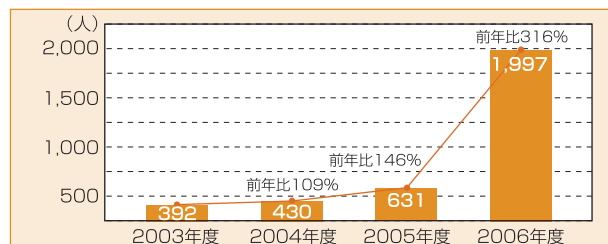
従業員の内訳を見ると、9割以上が正社員であり、特にハンドルを握る営業職は、プロとしての自覚を有する人材である



必要があるため、正社員比率が高くなっています。

また、女性従業員の採用も飛躍的に伸びており、女性の活躍が期待されていることが表れています。

### 女性従業員採用人数



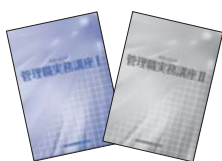
## 人材育成

従業員一人ひとりが、仕事を通じて自己の成長を実感し、やりがいを感じることでできる環境にするために、全国統一の教育体系を整備しています。

### ■ eラーニング

従来の自己啓発プログラム「めざせ店長」「めざせ管理職」の運用を見直し、単に試験に合格することだけを旨とする学習方法ではなく、本当の意味で知識を身につけるために、eラーニングによる「管理職実務講座Ⅰ・Ⅱ」を導入し、2007年度より運用を始めています。

	2006年度実績	
	受験者数	合格者数
「めざせ店長」	4,103	897
「めざせ管理職」	5,567	982



研修用テキスト

### ■ 2006年度研修実績

	参加人数	研修開催回数
1 店長初任研修	44	2
2 店長候補養成講座	115	1
3 営業係長基礎研修	318	10
4 営業係長レベルアップ研修	164	8
5 CS係長基礎研修	53	2
6 CS係長レベルアップ研修	41	2
7 安全推進係長基礎研修	168	4
8 電話対応インストラクター養成研修	54	1
9 ロジスティクス実践スクール	32	1
10 海外研修	95	5
11 エコ安全ドライブ研修	484	14

## 安全な職場の構築

SGホールディングスグループでは、すべての従業員が安全に、安心して働くことができる労働環境の確立を目指しています。

2004年度から2006年度までの3カ年で「労働災害の半減」を目標に掲げ、安全衛生管理体制の整備と教育、職場環境の整備、安全装備の標準化や、メンタルヘルスケアの強化に努めました。



「ストップ・ザ・労働災害」ポスター

2006年度は、2002年度労働災害事故抑止件数の半減を目標に掲げ、目標180件に対して117件の発生となり、3カ年を通して目標を達成することができました。

働きやすい職場づくりは、従業員が能力を最大限に発揮するために必要不可欠です。従業員や家族の幸せ、お客さまへのサービス品質向上の観点からも重要な課題であるため、今後も、企業の財産である従業員への安全衛生対策の強化に取り組み、安全が確保された職場の提供に努めます。

## 心と体の健康管理

### ■ 健康への意識づくり

日々の仕事に追われておろそかになりがちな心と体の健康管理の一助となるよう、さまざまな媒体を通して、従業員へ意識づくりを呼びかけています。

中でも、毎月発行される社内報「飛脚」には「健保だより」のコーナーを設けて、夏バテや熱中症、インフルエンザなどの予防法や各種検診の案内など健康管理についての情報を掲載しています。

また、特に夏場の健康管理については特集を組み、新人ドライバーに対する注意を呼び掛けています。

その他、SGホールディングスグループ健康保険組合より、健康管理の機関誌「さわやか」を従業員の家庭に年4回送付するなど、情報の提供に努めています。



社内報「飛脚」 健康特集

健康管理の機関誌「さわやか」

### ■ 健康診断

従業員の健康状態を把握し、適切な健康管理を行っていくために、法定項目のほかに独自の項目を設け、健康の維持促進に努めています。

健康診断の実施後、二次検診の勧奨はもとより、産業医や保健師による有所見者への意見・指導を行い、個別の健康管理を推進しています。

### ■ メンタルヘルスケアの促進

従業員とその配偶者・扶養家族を対象に、「SGホールディングスグループ健康ダイヤル24」を開設しています。外部の専門機関による相談窓口を設け、健康・医療・介護・育児相談や医療機関情報の提供といった家庭生活相談から、仕事や人間関係などの悩み・ストレスなどの「こころの相談」まで、専門家が24時間対応し、匿名での依頼も受け付けています。



「健康ダイヤル24」ポスター

## 福利厚生

### ■ SGホールディングスグループ スポーツフェスティバルの開催

社員が生き生きと働くためには家族の理解・協力が重要であり、社員だけでなく家族も含めた全体でSGホールディングスグループが成り立っていると考えています。そこで、社員、家族の親睦を図るため、グループ各社または事業所、地域ごとにさまざまなイベントを開催しています。

中でも、毎年5月の初旬に開催している「SGホールディン



守山パーク



グスグループ スポーツフェスティバル」は、グループを挙げての一大イベントとして、全国から滋賀県守山市にある保養施設「守山パーク」に社員と家族が集結し、大人も子どもも楽しんでいきます。

### ✿Voice

スポーツフェスティバルへの参加は今年で4回目。いつもまず初めに芝生広場へ直行し、家族で団樂するのが我が家の楽しみ方です。



佐川急便 大阪店  
石丸 善大さん一家

### ■ 厚生施設の提供

SGホールディングスグループでは、従業員が心身ともにリフレッシュできる施設として、国内外に厚生施設を保有しています。

また、厚生施設以外にも契約リゾート施設を提供しており、従業員家族のコミュニケーションの場としても利用されています。

### ■ 主な厚生施設



レークさかわ

日本一大きな湖・琵琶湖の東岸を望むレークさかわは、豊かな自然と開放的な風景を楽しめ、守山パークにも隣接し、心身ともにリフレッシュできます。



熱海さかわ荘

日本有数の保養地・熱海にある熱海さかわ荘は、太平洋の大きく輝く波と爽快な風わたる海岸沿いに位置し、日常から解放されたリフレッシュ体験を堪能できます。



佐川急便守山陸上競技場

滋賀県守山市にある守山パークには、陸上競技場、野球場3面、ソフトボール場、人工芝サッカー場、体育館、室内プールを備え、社員をはじめ地域の方にもご利用いただいています。

### ■ クラブ活動

佐川急便では、スポーツの振興と健全な体づくりを目指し、さまざまなクラブ活動を支援しています。

中でも、佐川急便サッカークラブ、佐川急便ソフトボール部、佐川急便陸上競技部は、それぞれがアマチュア最高峰のステージで熱戦を繰り広げています。

#### 佐川急便サッカークラブ



日本フットボールリーグ(JFL)所属の佐川急便東京SCと、佐川急便大阪SCを統合。2007年度から本拠地を滋賀県に移し、「佐川急便SC」として、地域に愛されるチーム作りと、JFL優勝を目指して活動しています。

#### 佐川急便ソフトボール部



2005年度から日本女子ソフトボールリーグに新規参入。その年に優勝して2部昇格を果たすと、2006年度は2部でも優勝。2007年度は、ユニフォームを一新し、強豪揃いの1部リーグで優勝を目指して頑張っています。

#### 佐川急便陸上競技部



毎年元日に行われる全日本実業団駅伝に12年連続で出場を果たしています。マラソン選手が多い中、2006年4月の日本陸上競技選手権大会50km競歩で谷井孝行が2位、谷内雄亮が3位に入賞するなど、チーム一丸となって目標に向けて汗を流しています。



# お客さまに向けて

お客さまのニーズに応えられるよう、高品質、高付加価値のサービス提供に努め、良きパートナーとして信頼される関係を目指しています。

## 満足いただけるサービスを目指して

佐川急便では、飛脚マークの変更に伴い、お客さまが商品名からそのサービス内容を容易かつ明確に想起できるよう、サービス体系の再編、商品名の統一およびリニューアルを実施しました。

すでに佐川急便として認知されている「飛脚」を商品名の頭に付けることで、佐川急便としての商品・サービスの認知向上を図り、新飛脚マークと組み合わせることでコミュニケーション効率を高めます。

また、佐川急便全営業店ではISO9001:2000の認証を受け、輸送サービスにおける品質管理も徹底しています。



ISO9001適合証明書

旧名称	新名称
佐川急便(宅配便)	飛脚宅配便
佐川急便フリーサイズパッケージ	飛脚フリーサイズパッケージ
佐川パソコン便	飛脚パソコン便
佐川セキュリティパッケージ	飛脚セキュリティ便
ホビーエクスプレス	飛脚ゴルフ便、飛脚スキー便
佐川ゆうメール	飛脚ゆうメール
佐川グリーンメール	飛脚グリーンメール
佐川ハンガー輸送	飛脚ハンガー輸送
佐川美術品輸送	飛脚美術品輸送
佐川引越輸送	飛脚引越輸送
佐川チャーター輸送	飛脚チャーター輸送

## 便利で快適なサービスの追求

佐川急便では、これまで培ってきたノウハウと最新のシステムで、お客さまがより便利に、より快適にご利用いただけるよう、さまざまな付加価値サービスを提供しています。

### ■ 情報と物流の融合サービス「e's(イーズ)」

e's「イーズ」 Webサービス	
e-コレクトサービス	Web集荷受付サービス
e-プレメントサービス	Web再配達受付サービス
e-SAXIS	お荷物問合せ・受領印提供サービス
e飛伝、e飛伝Pro	配達完了通知メールサービス
e飛伝産直	不在通知メールサービス
e飛伝Web	営業店止め到着通知メールサービス
集荷依頼サービス	携帯電話・PHS配達状況確認サービス

※佐川急便のサービスに関する詳しいお問合せは、担当のセールスドライバーまたは最寄りの営業店までお尋ねください。

## 安全で安心なサービスの提供

情報化が進むなか、個人情報の漏えいや、偽造など、情報に関するリスクも高まっています。

佐川急便では、こうした危険からお客さまを守るため、安全かつ安心なサービスの提供に努めています。

### ■ 受取人確認配達サービス

インターネットの普及により、カードによる犯罪やオークションなどを利用した犯罪が増していることから、商品のお届けの際にも、セキュリティの強化と、安全な取引環境の確立が求められています。

佐川急便では、決済専用端末機を利用した宅配便業界初となる「受取人確認配達サービス」を開発しました。宅配便受け取り時のなりすましを防止し、より安全なサービスを提供します。

### ■ 飛脚セキュリティ便

個人情報の漏えいが社会問題へと発展し、個人情報保護法が施行されるなど、今や企業にとって個人情報を含む機密情報の取り扱いには細心の注意を払うことが必然の義務になっています。

そのため、これまで以上に輸送の安全性、機密性を確保したサービスへのニーズが高まったことから、佐川急便では、ダイヤルロック式の専用ケースを開発しました。内部に装備されたPHS端末によりリアルタイムに位置情報が送信され、荷物の現在位置を監視できるセキュリティ輸送サービス「飛脚セキュリティ便」で、社会へ安心と信頼を提供します。飛脚セキュリティ便専用ケース



## 心のこもった応対を目指して

佐川急便では、セールスドライバー同様に当社の代表としてお客さまと接し、生の声をいただく「電話応対」を第二の営業と位置づけています。

毎日何万本という電話すべてに心のこもったきめ細かいサービスを行い、お客さまの期待を裏切ることのないよう、信頼関係を築くことができるよう電話応対品質の向上に努めています。

### 電話応対コンクール

2001年からは、日頃の業務で培ってきた電話応対スキルを発表する場として、また電話応対技術の向上を目的として、社内電話応対コンクールを開催しています。

電話応対ではお客さまとお互いの顔が見えないため、適切・迅速・誠意ある対応が求められます。佐川急便ではこのような大会で得た経験や知識、スキルを日々の業務に活かし、これ

まで以上にお客さまに喜ばれるサービス品質の提供に努めていきます。

また、2006年11月17日に開催された(財)日本電話ユーザ協会主催の「第45回電話応対(CTI)コンクール全国大会」では、佐川急便長岡店より出場した社員が優秀賞を受賞しました。この大会は、顧客満足度の高い電話応対スキルの向上を目的に毎年開催されるものです。

今大会は都道府県大会に出場した7,311名の中から選ばれた55名が出場し、佐川急便からは7名が各都道府県の代表として出場しました。



社内電話応対コンクール



優秀賞を受賞した  
佐川急便 長岡店 井上桂子

## 環境セミナーの開催

佐川急便では、お客さまに向けて「佐川急便環境セミナー」を開催しました。地球温暖化問題をはじめとする環境問題への対策として、物流業界におけるグリーン物流の取り組みや改正省エネ法での荷主に係わる事項、環境先進企業による取り組み事例をセミナー形式で実施し、お客さまよりご好評をいただいています。

2006年度は、福岡、名古屋、大阪、東京にて開催し、国土

交通省、経済産業省、松下電器産業株式会社の皆さまにご協力いただき、活発な意見交換を実施することができました。

今後も引き続き、お客さまへの情報提供、意見交換の場として実施していきます。



### \*Voice

昨年4月より改正省エネルギー法が施行され、一定規模以上の輸送能力を有する輸送事業者および貨物輸送に係る年間の発注量が一定規模以上である荷主に対し、省エネ計画の作成、エネルギー使用量等定期報告等の義務付けがなされました。これは、京都議定書の発効を踏まえ、エネルギー使用量の伸びが著しい運輸分野の対策を強化するためです。

今回、民間の物流事業者が自らセミナーを開催し、広く荷主企業に情報を提供することは意義深いものと感じております。今後は双方協力のもと、省エネルギーが一層推進されることを期待します。



国土交通省 総合政策局  
環境・海洋課 地球環境対策室  
室長 宮澤 康一様

「佐川急便環境セミナー」で松下グループのグリーン物流の取り組みや改正省エネ法への対応を事例紹介させていただきました。一方的なセミナーではなく、交流の場も設けていただいておりますので、多くの方々との情報交換ができました。

セミナー開催後も複数のお会社の方々、弊社にお越しいただいたり、お電話を頂戴したりで荷主間ネットワークも広がりました。

物流分野のCO<sub>2</sub>削減においては荷主と物流事業者との連携が必須です。佐川急便殿にはこれまでの環境への取り組みを基盤とし、業界のリーダーシップをとって先導いただき、我々荷主との連携体制を共に築いていただけることを期待いたします。



松下電器産業株式会社  
グローバルロジスティクス推進室  
主事 金城 佐和子様

## お客さまからの評価を受けて

SGホールディングスグループ社員は、お客さまに満足いただける対応を心掛けています。社員一人ひとりが自信を持っている点、努力の必要がある点を自己評価していますが、実際にお客さまが評価している内容は、自己評価とは異なることを認識し

なければなりません。日頃の対応をお客さまに評価していただくこと、今回「お客さまからの通信簿」という企画を立てました。

お客さまの心を敏感に感じ取り、口にはされない要望にもお応えできるように取り組んでいきたいと考えています。

### お客さまからの通信簿



佐川急便 大阪店  
岸田 健太郎

#### 自己評価

##### ● 自信あり! について

滝清株式会社様とは、自分の担当コースの中でもお話しする機会が一番多く、良いお付き合いをさせていただいています。社にもある、顧客第一主義に徹して、常に時間を意識して集配業務に取り組み、誠実にお客さまに接しているつもりです。

##### ● もっと頑張らなければ! について

元気のよさについては、いつも大きな声を意識していますが、まだまだ自分の殻を破れていません。笑顔を作るのが下手ですし、急なトラブルが発生したときに自分自身でなかなか解決できません。



経験の浅さが出てしまうこともあるので、お客さまからどう思われているのか気になるところです。さて、お客さまの評価は…

#### お客さまからの評価

##### ● よくできました! について

岸田君はまじめすぎるくらいまじめで誠実。私たちだけでなく、私たちの会社の周りの人たちにも駐車などの面でもとても配慮してくれます。そのまじめさが彼のいいところでしょうね。頑張っってよい笑顔をつくる姿勢からも誠実な印象を受けます。仕事でも、今までうまくいっているので問題はないです。あと、めったにないんだけど遅れている荷物は事前に電話をもらえるので助かります。そのようにお客さまのことを考えて何かをできるということは素晴らしいと思います。

##### ● もう少し頑張ろう! について

少しおとなしいという印象はありますね。自分でも意識しているみたいだけど、まじめすぎてユーモアに欠けるところもあります。これから、そこを改善できればもっともっと営業力のある頼れるドライバーになると思うし、そうなってほしいです。

#### 評価をいただいた感想は・・・

全体的に高い評価を頂きありがたいです。笑顔でよい評価をいただいたことは意外でしたが、とてもうれしいです。これからは自分にもっと自信を持って、コミュニケーションを取ろうと思いました。

今後はすべての項目で良い評価をいただけるようさらに努力していきます。



ご協力いただいたお客さま  
滝清株式会社 大阪支店様  
事業内容/繊維製品  
(ボタン、ファスナー)販売



# 地域社会とともに

良き企業市民としての責任を果たし、豊かで健康な生活、安心できる社会の実現に向け、地域社会との共生に取り組んでいます。

## 自然体験学習

2007年5月3日、グループ社員とその家族、地域住民の総勢130名が参加して、田植え体験学習を滋賀県守山市で実施しました。参加者の大部分が初めての田植え体験でしたが、農作物がどのように生産されているかを体感することにより、食べ物大切さを再確認する機会になったと考えています。

また、田植え作業のほか、親子で一緒に水田周辺に生息する生物を観察するなど、自然と触れ合うことで次世代を

担う子どもたちに自然の大切さを伝えることができました。



田植え初体験の子どもたち



親子参加者

## 職場体験学習

※1 フューチャー イノベーション フォーラム (FIF) が主催する「『社会の最前線』見学」に、佐川急便が協力しました。これは、「イノベーションの未来を担う子どもたちの夢を広げよう」をコンセプトとする活動であり、2007年3月には「物流の最前線」というテーマで開催され、小学校5年生～中学2年生までの17名が参加しました。

全員に佐川急便のユニフォームに着替えてもらい、実際のお客さまへ荷物を配達したり、集荷した荷物の大きさを計測するなど、セールスドライバーと同じ作業を体験してもらいました。



荷物の計測

参加した子どもたちからは、「もう一度配達の仕事を見学してみたい」や、「めったに見れないことが見れてよかった」といった声が聞かれ、今回の体験をとおして、社会を支える物流の仕組みや「はたらくこと」の意味を感じてもらえたと考えています。

今後も、未来を担う子どもたちに対して、私たちが伝えられることをしっかりと伝えていきたいと考えています。



配達店番号の記入



物流センターの見学

## 産学連携 (ホスピタル・ロジスティクス) への取り組み

佐川急便は、東京大学医学部附属病院22世紀医療センターに、寄付講座「ホスピタル・ロジスティクス講座」を開設しています。この講座では、医療材料の供給や患者の利便性を高める物流サービスを中心に、効率的なネットワークの構築を目指した共同研究を行っています。

病院サービスの向上を目的として2005年2月より試行している「手ぶら入退院パック」や、退院患者や通院患者の医薬品全般を効率的にサポートすることを目的として、2005年10月より「お薬宅配パック」を試行しています。

### 2006年度実績

手ぶら入退院パック	1,240件
お薬宅配パック	33件

### ✿ Topic

#### 東京大学しよくもん 薬門賞の受賞

2006年10月24日、東京大学に貢献した個人や法人、団体に送られる「東京大学薬門賞」を受賞

しました。今回の受賞は、東京大学医学部附属病院22世紀医療センターでの共同研究が評価されたものです。



## 流通に関する寄付講座への協力

2006年4月20日、関西大学にて開催された(社)日本物流団体連合会寄付講座「流通問題特殊講義(物流の変革)」において、佐川急便常務取締役の近藤宣晃が「トラック運送業―地域内物流」をテーマに講義を行いました。

物流業界の変遷や佐川急便の戦略について、専門的な視野から実務に及ぶ内容の講義を行い、約150名の学生からは、

「現在は、市場が高付加価値化していて、細かいところまでサービスがないと成り立たない。お客さまのさまざまなニーズに合わせることが物流にも必要であることが理解できた」といった意見が聞かれ、佐川急便の戦略・サービスに高い関心が寄せられました。



## 国境を越えた友好

(財)佐川国際経済協会は、ラオス人民民主共和国への中古トラック(散水車含む)寄贈に関して、ラオス政府より国家勲章を受章しました。

同財団では、2003年よりラオス政府機関の受け入れ窓口

である「国家陸上・河川運輸公社」を通じてラオスへの中古トラック(散水車含む)寄贈を毎年実施しており、2007年3月までの寄贈台数は37台(散水車含む)にのぼります。



現在までに寄贈したトラックは、ラオス国内において主に生活用品の輸送手段や道路整備の手段として有効活用されています。



車両寄贈式



ラオス国内で活用されているトラック(首都ビエンチャン)

## 募金活動への協力

SGホールディングスグループでは、2001年より青い羽根募金に協力しています。青い羽根募金は、国土交通省が主催する「海の月間」における全国行事の一環として位置づけられており、海で遭難した人々の救助活動にあたるボランティアの方々を支援するために設立されたものです。

モーダルシフトなどにおいて海上輸送との関わりを持つ企業として毎年参加しています。



グループ全社員が青い羽根を携帯しました

## 救援物資搬送協定の締結

佐川急便は、2006年7月3日、日本赤十字社と救援物資搬送協定を締結しました。これは、災害が発生した際、被災地に必要な救援物資を迅速に、遅滞なく搬送するための体制をより確固たるものとするためのものです。

この締結により、災害時の救援活動への全面協力を固く約束しました。



調印式の様子

## スポーツイベント等への協賛

### ■ サガワ カマモト ジュニアカップ モリヤマ 2006

第1回目から協賛しているこの大会は、2006年で10回目を迎えます。20チームが参加した今大会もレベルの高いプレーが随所に見られ、白熱した試合が繰り広げられました。



暑さに負けず一生懸命プレーする子どもたち

### ■ 第41回青梅マラソン・おきなわマラソン2007

青梅市で開催された「第41回青梅マラソン」には、約1万6,000名が参加しました。また特別協賛する「おきなわマラソン2007」には約9,000名が参加しました。

### ■ ゴールデン・ルーキー賞

日本プロ野球で最も活躍した新人選手に贈られる「ゴールデン・ルーキー賞」に協賛しています。

受賞選手には、(財)佐川美術館ともゆかりの深い彫刻家の佐藤忠良氏制作によるブロンズ像「萌える」が贈られました。



ブロンズ像「萌える」

### ■ 佐川急便杯第52回全日本アマチュア本因坊決定戦全国大会

招待選手、各都道府県の予選を勝ち抜いた選手が出場する囲碁の全国大会です。

## ステークホルダーとの対話

社会から寄せられている期待は何か、その期待に応えられているのか、どうお応えすることができるかを知るため、行政関係者、学識経験者、NGOをはじめとするさまざまな関係者との対話を継続しています。

### SGホールディングスグループとステークホルダー

総合物流業をはじめさまざまな事業を営む、SGホールディングスグループは、多くのステークホルダーとの関わりの中で事業活動を展開しています。荷物の配送のご依頼をいただくお客さまや配送先のお客さま、従業員、取引先等の協力企業との信頼関係が事業活動には不可欠です。

また、株主からの信頼、許認可事業という特性上、行政からの信頼も重要です。さらに、地域住民の方、NPO・NGOやマスコミ等からも信頼され、社会から必要とされる企業グループを目指しています。



## 第3回SAGAWAステークホルダー・ダイアログの開催

佐川急便では、2004年度からさまざまなステークホルダーの方をお招きし、佐川急便への期待を伺うとともに、社会の課題について一緒に議論させていただく場を設けてきました。第3回目となる2006年度のダイアログでも、行政関係者、学識経験者、NGO、企業担当者、ジャーナリスト等、合計30名の方々と、佐川急便代表取締役社長をはじめとする佐川急便担当者が、「持続可能な国づくりをめざして物流分野が果たす役割」というテーマで意見交換を行いました。

### より多くご発言いただけるようグループ討議を実施

今回のダイアログでは、物流分野を取り巻く社会状況が多様化していることから、具体的な討議テーマとして3つをあげて進めることにしました。また、より多くの方にご発言いただけるよう、3つのテーマごとにグループを分けて議論を進めていただきました。

それぞれの参加者には、事前にアンケートを実施し、各自の意見を整理した上でコーディネーター、ファシリテーターの方にグループ討議をリードしていただくことで、活発な討議となりました。

### 実施概要

【実施日】2007年1月19日(金)

【場所】東京

【参加者】計35名

コーディネーター 崎田裕子様  
(ジャーナリスト・環境カウンセラー)  
ファシリテーター 鬼沢良子様  
(NPO法人持続可能な社会をつくる  
元気ネット事務局長)  
土屋晴子様  
(環境ジャーナリスト・ライター)

行政関係者、学識経験者、NPO・NGO代表者、弁護士、  
企業担当者、ジャーナリスト、佐川急便担当者等

### 【実施内容】

- ・基調講演
- ・グループディスカッション 討議
  - ① パートナーシップによるグリーン物流のさらなる実現に向けて
  - ② 物流企業の社会貢献活動と環境コミュニケーションについて
  - ③ サステイナブルな地域社会めざして、果たすべき交通の役割
- ・グループ発表および全体討議



佐川急便代表取締役社長 栗和田榮一の挨拶でダイアログを開始

話題提起と参加者の意識統一のために、基調講演を実施

3つのグループに分かれて、それぞれの討議テーマについて意見交換



## ■ キーワードをもとに全体で意見交換

各グループとも積極的な意見交換が行われ、いくつかのキーワードが提示されました。それをもとに全員で討議し、寄せられた意見の主なものは下記の通りです。

### 【物流事業者と荷主の連携】

グリーン物流を実現するためには、物流事業者と荷主企業の連携が不可欠である。そこで両者における現状となすべきことについて議論すべきである。

### 【地域での取り組み】

持続可能な社会づくりを地域へも普及させていくことが必要とされている中で、地域の自主自立を求め持続可能性につなげていくべきである。

### 【中小事業者について】

中小事業者については、物流の効率化と環境の両立をめざしていくことは難しく、中小事業者を束ねる共同化の仕組みづくりを大企業主導で行うことが必要である。

## 【物流のブランド化】

グリーン物流を実現するために、物流事業者と荷主の連携のほかに最も重要なものとして、消費者の意識改革があげられる。

## ■ ダイアログを終えて

全てのテーマから共通して出されていた意見は、「消費者・荷主の意識改革と連携の必要性」でした。そのために、物流事業者の環境活動をもっと知っていただく啓発活動が必要であることを改めて認識しました。

また物流のインフラを利用した環境に配慮したサービスなど、いただいたご意見・ご要望を具現化する、また、可能性を探ることが与えられた重要な使命であると考えています。

加えて、自然との共生は忘れてはならないテーマであることを認識した会でした。佐川急便の活動も「自然との共生」という観点から見直しをしていきたいと考えています。

第3回SAGAWAステークホルダー・ダイアログの内容は佐川急便ウェブサイトでもご覧いただけます。

高尾の森づくりなどの新たな「自然との共生」への取り組みは、高く評価され得るものと存じます。持続的発展が可能な社会の構築のためには、従来から熱心に取り組まれた「環境負荷の低減」に加え「自然との共生」の確保に向けた取り組み、この双方の環境への取り組みが不可欠であると存じます。今後とも、社会貢献活動を継続実施されると共に、環境への取り組みを

企業市民として本来果たすべき社会的責任として位置付けられ、「自然との共生」を含む独自性あるCSR活動を推進されることにより、「飛脚便」の企業価値を益々高められることを希望いたします。

財団法人 水と緑の感星保全機構  
上谷 兼一様

## \*Voice



「便利なくらし」「迅速な仕事」を支える物流は、現代社会には無くてはならない存在です。けれども、地球温暖化や大気汚染への対処が強く期待される分野でもあり、佐川急便の皆さまが社会的責任を強く自覚し、「物流の将来像」と真正面から向き合う姿勢に感動します。

そして、数々の提言をどう受け止めていただくか、今後に期待したい。特に「環境にやさしい宅配便」とは何か、サービス内容、料金設定、インセンティブ付与の仕組み、中小事業者の共同配送など、具体的な話し合いもしました。実現には

事業者・消費者のコスト負担を伴う可能性もあり、社会全体の意識改革と連携が必要ですが、物流業界から恐れずに提案いただきたい。「環境と経済の好循環」を生むパートナーシップは、環境コミュニケーションの積み重ねから生まれるからです。

今後、温暖化対策はじめ、循環型社会づくり、自然との共生を果たし、持続可能な地域づくり、国づくり、アジア構築の牽引役として、歩んでいただきたいと願っています。

ジャーナリスト・環境カウンセラー  
崎田 裕子様

## \*Voice



ファシリテーターの方を中心に、各グループでポストイット等を使い論点整理を実施



各グループが討議内容を発表



各グループの発表を受けて、全体討議を実施

## 財団活動

### ■ (財) 佐川美術館

<http://www.sagawa-artmuseum.or.jp/>

佐川急便創業40周年記念事業の一環として、1998年3月、琵琶湖を望む守山パーク（滋賀県守山市）に開館しました。佐川美術館は、日本を代表する芸術家である日本画家の平山郁夫先生、彫刻家の佐藤忠良先生の作品を中心に展示しているほか、特別展を開催し、東西文化の交流というテーマのもとに、海外も含めた貴重な美術品を数多く紹介し、国際的な文化貢献も果たしています。2006年度は特別展として、韓国・湖林博物館所蔵「李朝陶磁の名品展」（4/22～6/25）及び「有元利夫-女神たち」（9/2～11/26）を開催、また、次世代を担う子供たちへの教育普及活動の一環として、小中学生と同伴の保護者の方の入館無料期間「びじゅつかんでなつやすみ」を実施したところ、

地域の皆さま方に多くお越しいただきました。2007年度は、佐川急便創業50周年記念事業の一環として、樂吉左衛門先生の創案による第3の館「樂吉左衛門館」が開館します。作家自身が自らの作品と茶の湯空間を演出するユニークな美術館が出現します。

来館者数実績(2006年度) 68,534名(累計647,138名)

2006年度開催の特別展ポスター



### ■ (財) 佐川国際経済協力会

<http://www.sagawa-kokusaikeizai.or.jp/>

1986年10月に設立され、中国をはじめとした開発途上国と日本の友好親善を目的として、中古トラックの寄贈と車両整備技術研修生の受け入れ事業を行っています。2006年9月に、第17回目となる佐川日中友好車両整備技術研修が始まり、6名の研修生を迎え、約2ヶ月間にわたり、佐川ギャラクシーモーターズをはじめ、各自動車メーカーさまの研修センター等で、日本の車両整備業務全般の包括的習得を図りました。

徐団長は、「想像をはるかに超えた日本の高度な車両整備技術の習得に加え、日本人の勤勉性・友好性を肌で感じる事ができました。また、日中間の友好の架け橋になれるよう頑張りたい」と語りました。

2007年3月現在  
中古トラック寄贈総数 3,289台  
車両整備研修生総数 96名



車両整備技術研修の様子

### ■ (財) 佐川留学生奨学会

<http://www.sagawa-ryugakusei.or.jp/>

佐川急便創業30周年記念事業の一環として、1986年2月に設立され、東南アジア諸国からの私費留学生を対象に奨学金援助を行い、日本と東南アジア諸国との国際交流・友好親善を目的として、奨学金支給事業を行っています。当初8名から始まった奨学生も設立3年目より、16名の留学生を奨学生として採用、1名につき月額10万円の奨学金を2年間（24ヶ月）支給、夢を叶えるため日本留学を決意した留学生に経済的支援をしています。現在は、交流

活動事業にも力を入れ精神的なサポートと奨学生同士の友情と絆を大切にしています。

奨学金支給実績(2006年度)  
支給人数 33名  
支給総額 3,900万円  
累計総支給額 7億2,570万円



採用証書授与式

### ■ (財) 佐川がん研究助成振興財団

<http://www.sagawa-gan.or.jp/>

1989年2月に設立され、日本人の死亡原因第1位であるがんの基礎研究や応用治療研究などの活動を助成し、医療福祉の向上に寄与する事を目的として、研究助成金支給、研究助成賞の授与、がんの予防啓発や自らの健康を守るための正しい知識の一般市民に対する普及事業を行っています。



市民公開講座

2002年度から毎年、がんの予防、診断、治療に関する最新情報を第一線で活躍中の先生方が分かりやすく講演する公開講座「がん市民公開講座」を開催しています。2006年度は、「大腸がん」をテーマにした内容で京都市内の会場で開催し、約400名が来場されました。

研究助成実績(2006年度) 累計支給実績  
支給件数 15件 総支給件数 301件  
支給総額 1,500万円 総支給総額 2億9,400万円

# 2006年度のあしあと

実施月度		
4月	SGホールディングス株式会社設立	
	(財)佐川がん研究助成振興財団が市民公開講座「肺がんの最新情報」開催	
	(財)佐川国際経済協会がラオス人民民主共和国へ中古トラックを寄贈	
	学研「交通安全紙しばい」の制作に佐川急便が協力。全国約7,400ヶ所の幼稚園へ寄贈	
5月	「第24回佐川急便幹線輸送全国一斉安全パトロール」実施	
	(財)佐川美術館が「韓国ソウル・湖林博物館所蔵 李朝陶磁の名品～白磁と粉青沙器」開催	
	地域の環境美化を目的に、クリーンアップ運動実施	
	「SGホールディングスグループ スポーツフェスティバル2006」開催	
6月	「さがわの森」環境研修実施	
	「佐川急便環境セミナー」開催(福岡)	
	「第14回佐川急便全国ドライバーコンテスト」開催	
	佐川グローバルロジスティクス(旧佐川物流サービス)、佐川アドバンス(旧佐川サポートサービス)商号変更	
7月	「エコライフ・フェア2006」に佐川急便が出演	
	佐川急便が「第4回日本環境経営大賞 表彰委員会特別賞」受賞	
	佐川急便が「第7回物流環境大賞 物流環境大賞」受賞	
	佐川急便が「平成18年度京都府環境トップランナー表彰」を受賞	
8月	佐川急便が日本赤十字と救援物資搬送協定締結	
	「第9回佐川急便幹線輸送全国一斉ターミナル点検」実施	
	「第2回佐川急便環境セミナー」開催(名古屋)	
	水難救済活動「青い羽根募金」に協力	
9月	「第3回佐川急便環境セミナー」開催(大阪)	
	佐川急便マレーシア営業開始	
	「サガワ カマモト ジュニアカップ モリヤマ2006」開催	
	佐川急便が天然ガス自動車導入台数3,000台突破	
10月	「佐川急便幹線輸送ドライバーコンテスト」開催	
	「第4回佐川急便環境セミナー」開催(東京)	
	「第25回佐川急便幹線輸送全国一斉安全パトロール」開催	
	(財)佐川国際経済協会が「第17回佐川・日中友好車両整備技術研修」開講	
11月	「第6回佐川急便全国電話応対コンクール」開催	
	佐川急便陸上競技部「第29回メルボルンハーフマラソン」優勝	
	佐川急便ソフトボール部2部リーグ優勝、1部リーグ昇格決定	
	e-コレクトに「ボーナス一括払い」を追加	
	「第38回全国トラックドライバー・コンテスト」内閣総理大臣賞・警察庁長官賞受賞	
	4トン部門・女性部門警察庁長官賞受賞	
	佐川急便が東京大学稜門賞受賞	
	ギャラクシーエアラインズ、羽田-北九州間・羽田-那覇間で運航開始	
	佐川急便陸上競技部「第45回全日本50km競歩高阜大会」一般男子20km競歩優勝	
	エリック・クラプトンジャパンツアー2006に佐川急便が協賛	
	(財)佐川留学生奨学会が2006年度(第21期)奨学生採用証書授与式開催	
佐川急便が業界初となる「受取人確認配達サービス」開始		
(財)佐川がん研究助成振興財団が平成18年度「佐川がん助成金」授与式、第4回「佐川特別研究助成賞・佐川看護特別研究助成賞」授賞式開催		
佐川急便が「平成18年度第45回電話応対コンクール全国大会」優秀賞受賞		
「佐川急便Webサービス」開始		
(財)佐川国際経済協会がラオス人民民主共和国へ中古トラック寄贈		
12月	平成18年度「エコドライブコンテスト」において佐川急便川崎店が環境大臣賞受賞、亀岡店入賞	
	佐川急便がグレース・ケリー展 美術品輸送のオフィシャル・カーゴに認定	
	佐川急便が「エコプロダクツ2006」に出展	
1月	佐川グローバルエクスプレスと中国郵政傘下・中国速通服務会社が業務提携	
	佐川急便の基幹システムを日本最大級のオープンシステムに刷新	
	「第10回佐川急便幹線輸送全国一斉ターミナル点検」実施	
2月	「第3回SAGAWAステーキホルダー・ダイアログ」開催	
	佐川急便が「ENEX2007」に出展	
3月	UHF帯RFID活用による航空貨物輸送の実証実験開始	
	(財)佐川国際経済協会が中古トラック寄贈に対しラオス人民民主共和国より国家勲章受章	
	(財)佐川がん研究助成振興財団が市民公開講座「大腸がんの最新情報」開催	

2006年度(2006年3月21日～2007年3月20日)における主要な取り組みです。



# 2006年度 各地の取り組み

## 佐川急便 九州ブロック

### ■ 那覇ハーリーに参加

5月3日から5日にかけて、第32回那覇ハーリー（海の神さまに漁を感謝し、安全を祈願する那覇の三大祭のひとつ）が開催され、協賛企業として佐川急便沖縄店と知花店が合同で爬竜船レースに参加しました。

長さ7メートルの船に片側16名、合計32名が乗り込み、木製のオールを使い片側350メートル、折り返し700メートルのコースでタイムを競うレースです。

合同チームは、昨年の初心者レースで1位となり、今年はランクアップで一般レースに参加。結果は39チーム中、5位と大健闘しました。



息ピッタリで大健闘!

## 佐川急便 北陸ブロック

### ■ 「市民植樹祭」に参加

10月1日、日本海東北自動車道沿線を環境に優しい「樹林道路」にするための植樹祭に佐川急便新潟店の従業員と家族が参加しました。今年で3回目となり、従業員や家族も恒例行事の一つとして楽しみにしていました。天候に恵まれて、つつじの苗木などおよそ400本あまりを植樹しました。

地域の豊かな自然を大切にす心の輪を広げていくために、今後も積極的に環境活動に取り組んでいきます。



恒例となった植樹祭

## 佐川急便 中京ブロック

### ■ 「夏祭り 松本ぼんぼん」に参加



みんな揃って「はい、ポーズ!」

8月5日、長野県松本市内にて夏の風物詩「第32回松本ぼんぼん」が開催され、小学生から企業まで延べ約2万数千人が参加。衣装に工夫を凝らした老若男女のグループが、「松本ぼんぼん」の音楽に乗り次々と繰り出し、市街地を練り歩きました。素晴らしい(?)踊りを披露したグループには賞が与えられます。佐川急便松本店からは、「飛脚連」として、社員、協力会社総勢120名が参加し、当日は松本市内担当係長を筆頭に、夏の暑さを忘れさせるほどの踊りを披露しました。

8月5日、長野県松本市内にて夏の風物詩「第32回松本ぼんぼん」が開催され、小学生から企業まで延べ約2万数千人が参加。衣装に工夫を凝らした老若男女のグループが、「松本ぼんぼん」の音楽に乗り次々と繰り出し、市街地を練り歩きました。素晴らしい(?)踊りを披露したグループには賞が与えられます。佐川急便松本店からは、「飛脚連」として、社員、協力会社総勢120名が参加し、当日は松本市内担当係長を筆頭に、夏の暑さを忘れさせるほどの踊りを披露しました。

## 佐川急便 東北ブロック

### ■ 「ビーチバレーin七ヶ浜」に参加

7月30日、宮城県の七ヶ浜で開催された「ビーチバレーin七ヶ浜」に佐川急便東仙台店、古川店、若柳店から3チームが参加しました。全64チームが出場し、熱戦が繰り広げられる中、参加した3チームも白熱した試合で盛り上がりましたが、全チーム1回戦で敗戦という残念な結果でした。



ビーチバレーを思いっきり楽しみました

試合には負けてしまいましたが、大会前の砂浜整備やゴミ拾いから、試合、応援と全てにおいて大会全般を盛り上げ、地域との親睦をさらに深めることができた一日でした。

## 佐川コンピューター・システム

### ■ 感謝の夕べ開催

毎年佐川コンピューター・システム沖縄コンタクトセンターにおいて、周辺地域の方々への日頃の感謝の気持ちと懇親を深めることを目的に、「感謝の夕べ」を開催しています。

当日は、宜野湾市長や自治会をはじめ、嘉数地区エイサー少年団や飛び入りの老人会の皆さんによる演舞など大勢の方に参加していただきました。パーベキューやポップコーン、ヨーヨーなど、子どもたちが喜ぶ催し物やお客さまを交えたカラオケ大会、ビンゴ大会などで、おおいに盛り上がりました。



エイサー少年団による迫力ある「エイサー」

## 佐川アドバンス

### ■ 収穫の秋

10月10日、瀬戸内パーク内にある農園で、毎年恒例になっている近隣の幼稚園児を招待してのサツマイモ掘りを行いました。生まれて初めての体験で、かわいらしい目をいっぱい的好奇心でキラキラさせ、泥んこになりながらも、小さな手で大きなサツマイモをいっぱい収穫し、楽しそうな笑顔がこちらにあふれていました。



小さな手で一生懸命に掘ってくれました

幼稚園児にとって、こうした自然と直に触れ合える機会は貴重な体験であり、同時に食べ物を大切にする心が芽生えてくれたらと願っています。

## 佐川急便 本社

### ■ たけのこの収穫祭

とあるきっかけから佐川急便本社の有志が集まり、自社所有竹林の整備のため、伐採と清掃を始めました。

この活動には2～3年はかかりますが、目標は高く、京都乙訓の竹林農家を目指しています！

ところが、4月初旬から5月初旬はたけのこが生えてくる時期で、この時期は竹林整備も一旦お休みしなくてはなりません。



掘りたてのたけのこはおいしいですよ！

ここぞとばかりにこの間を狙って、収穫祭を開催しました。掘りたてのたけのこをまるごとホイル焼き。ホクホクのたけのこに、有志も家族もホクホクの笑顔になりました。

## 佐川急便タイ・コンテナ・ディストリビューション・サービス

### ■ タイ人の注射

11月3日、年に1度の定期健康診断を行いました。タイの人は注射に慣れていないせいか、子どものように泣き出してしまふ社員がたくさんいました。視力検査の隣にはめがね屋、フロアには健康食品業者などが店を開き、まるでスーパーマーケットのようでした。



誰でも痛いですよ。笑っちゃダメです！

## 佐川急便 関西地区

### ■ 野菜を育てるプログラム

佐川急便神戸店は、神戸大学様との協働で地域の子どもたちと保護者、スタッフなど総勢50名で野菜を育てるプログラムを実施しました。5月～8月までトウモロコシ、おくら、なすなどを育てました。土や植物に触れ、自然を大切にすることを育むことを目的とし、自然の恵みをいっぱい感じてもらいました。



日差しを浴びて、野菜も子どもも元気いっぱい！

0歳の赤ちゃんを抱っこしながら、3歳の子どもを連れて参加して下さったお母さまは特に大変だったと思いますが、子どもたちは元気いっぱい、楽しみながら野菜の世話をしていました。

## 佐川急便インドネシア

### ■ 断食明けの食事会

10月11日、事務所近くのおいしいと評判の店で、毎年恒例の断食明けの食事会を開催しました。佐川急便インドネシアの80%を占めるイスラム教徒の従業員は、目の前のごちそうと断食明けの時間待ちで時計にとらめっこ状態！ようやく断食が終了すると、まずは水を一気に飲み干し、すごい勢いでいつも以上の量を食べていました。



ものすごい食欲です

話をする余裕もないほど食事に集中し、わずか15分で完食してしまいました。

## 佐川急便ソフトボール部

### ■ 京都の住所に悪戦苦闘



京都の住所は難しいよ～

自社グラウンドの落成を控えて寮を移転する事になり、私たち佐川急便ソフトボール部員の職場も、大阪から京都に変わりました。業務内容は以前と変わらず、お客さまからの集荷や不在再配達達の電話受付ですが、ひとつ困った事に、私たちはまだ京都の住所をよく知りません。お客さまは、はんなりとした言葉で、のんびりとした印象を受けますが、京都独特の「～通上ル…」 「～通東入ル…」など、強烈な個性の住所には、びっくりしました。経験していくことで徐々に覚えていけるとは思いますが…。

## 佐川急便香港

### ■ 第1回社内美化清掃

7月11日、「社内美化運動」の一環として、第1回目の施設内清掃を行いました。

香港の中級層以上は、お手伝いさんを雇っていることが多く、家でもほとんど掃除をしないようですが、この日は多数の社員が汗を流しながら参加しました。最近では香港でも環境問題が数多く取り上げられているため、社員も少しずつ環境問題に関心を持ち始めています。まずは体を使って、社内や施設をきれいにすることから始めていきたいと思っています。



国境を越えて環境活動が広がればと願っています

# WWFクライメートセイバーズプログラム に基づく温室効果ガス排出量評価結果報告書

SGホールディングス株式会社  
代表取締役 栗和田 榮一 殿



2007年 6月 11日

## 1. 評価業務の対象と目的

私たち、株式会社みすずサステナビリティ認証機構は、佐川急便株式会社(以下、「会社」という)の依頼にもとづいて、会社と財団法人世界自然保護基金ジャパン(以下、「WWF」という)との間で締結された「クライメート・セイバーズに係る覚書」(以下、「覚書」という)に基づき会社が算定した2006年度の二酸化炭素排出量及び目標達成に向けての取り組み状況の評価業務を行った。評価業務の目的は、会社の事業活動に伴う2006年度の車両燃料使用量、電気使用量(以下、総称し「評価対象情報」という)を対象として、以下の点について独立の立場から意見を表明することである。

1. 評価対象情報の目標達成に向けての取り組みは、「覚書」に準拠したものであるか。
2. 評価対象情報は、関連する会社所定の手続に従って収集され報告されたものであるか。
3. 評価対象情報は、根拠資料に基づくものであるか。

評価対象情報は、会社の責任のもとに作成されたものであり、私たちの責任は独立の立場から意見を表明することである。

## 2. 実施した評価業務手続の概要

私たちは、「環境報告書審査基準案」(2004年3月制定 環境省)に準拠し、また、「過去財務情報の監査又はレビュー以外の保証業務(ISAE3000)」(2003年12月改正 国際会計士連盟)及び「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令(2002年12月26日公布)」、「クライメート・セイバーズに係る覚書」(2003年5月29日締結)を参考にして業務を行った。

評価業務にあたって、佐川急便株式会社(本社及び関東地区、関西地区、中国支社)に対して行った手続の概要は以下のとおりである。

- ・ 評価対象情報の取りまとめに関する担当者へのインタビュー
- ・ 評価対象情報が測定、集計、報告される方法に関する資料の閲覧、質問等
- ・ 評価対象情報についてサンプリングしたデータと根拠資料の突合等、各根拠資料間の整合性の評価、分析的手続

## 3. 私たちの意見

私たちは評価を行った結果、その実施手続の範囲において以下の結論を得た。

- ・ 評価対象情報は、2003年5月29日に会社とWWF間で締結された「クライメート・セイバーズに係る覚書」に準拠したものである。
- ・ 評価対象情報は、関連する会社所定の手続に従って収集され報告されたものである。
- ・ 評価対象情報は、根拠資料に基づいており、修正すべき重要な事項は発見されなかった。

## 4. 独立性

会社と私たちの間には、公認会計士法等の規定に準じて記載すべき利害関係はない。

以上

株式会社みすずサステナビリティ認証機構

A network firm of  
PRICEWATERHOUSECOOPERS



MSCert  
MISUZU Sustainability Certification

E2007-0001

代表取締役社長

井上壽枝



## 「環境・社会報告書 2007」に対する第三者のコメント

SGホールディングス株式会社  
代表取締役会長 栗和田 榮一 殿

2007年6月11日

私たちの業務は「環境・社会報告書 2007」（以下、「同報告書」という。）に記載された重要な社会面・環境面の取組みおよびその記載内容に関して、AA1000 保証基準\*1 を参考として、第三者の立場から評価することを目的としています。今年は、評価の初年度であるため、AA1000 保証基準の3原則（重要性、完全性、対応性）について評価するための事前評価を行う年と位置づけました。

また、コメントにあたっては、私たちが定めた「コメント業務指針案」に従い、以下の手続を実施しています。

1. 担当取締役へのインタビュー
2. 本社、関東地区における視察、ヒアリング
3. 同報告書の原稿の通読

### 1. ステークホルダーとの対話

会社は、3年間にわたりステークホルダー・ダイアログを開催し、社外の多様な人々とのコミュニケーションを活発に行ってきました。この結果、会社は、持続可能な社会の実現に向けて物流業界の抱える課題を理解しています。これから会社に期待することは、これまでの対話の中で抽出された課題について、会社として何ができるのか検討をして具体的な施策に落とし込み、その対応を社内外へ示していくことです。

そのためには、これまでのダイアログのスタイルに加え、課題解決のためにステークホルダーとの対話を活用することが必要です。特に、物流会社の抱える課題の多くは、荷主、着荷主、協力会社等からの理解や協力を得ることなしには解決できません。課題の抽出という点においてはこれまでのダイアログは十分に機能してきたと思われますので、今後は、課題解決のためのコミュニケーションも目的としたダイアログの運営方法や得られた意見を具現化するための活動方法について検討することが望まれます。

### 2. CSR の取組み

会社は、CSR を特別な取組みではなく、日常の事業活動において取り組むべきことであると考えています。このため、安全対策や環境保全におけるハード面、ソフト面の対策をこれまで実施しており、中期経営計画の中でも、安全、環境に関連する目標を設定しています。加えて幅広い分野にわたる社会貢献を行ってきました。

今後は、現在行っている CSR の取組みを整理し、SGホールディングスグループの事業活動の方向性とマッチした CSR 戦略を示していくことを期待します。会社は、既にそれに向けてグループとしての CSR マネジメント体制を整備するために、国内外の各グループ会社にお

ける CSR の取組に関する現状調査を開始し、どのようにステップアップしていくかを検討しています。その検討を踏まえ、「10年後の会社のCSR」というビジョンや目標を経営計画と関連づけて示すことは、今後のCSRの取組をグループ全体に浸透させるためにも役立つものでしょう。

### 3. より理解される情報開示に向けて

会社は、環境・社会報告書を通じて会社が正しく理解されることを目指しています。このため、ネガティブ情報であるコンプライアンス違反についても情報開示しており、その姿勢は評価できます。

今後は、発生した問題や直面している課題を解決するための方針、仕組み、体制、目標や計画、その進捗を計る指標を整え、取組み状況を年次報告として環境・社会報告書で報告を行っていくことが望まれます。具体的な項目としては、女性の活用に関する施策や社員のワークライフバランスに関する取組み、社員の労働時間、協力会社への配慮、廃棄物管理が考えられます。

※このコメントは、レポートの記載情報の収集と報告に関するプロセスの有効性や信頼性を述べるものではありません。

株式会社みずすサステナビリティ認証機構  
(みずす監査法人グループ)

A network firm of  
PRICEWATERHOUSECOOPERS  **MSCert**  
MIZUSU Sustainability Certification  
IC2007-0001

代表取締役社長

井上 壽枝

\*1 AA1000 保証基準とは、イギリスの NGO であるアカウンタビリティ社が発行したサステナビリティ報告に関する保証基準。ステークホルダーからみて報告において適切な事項が開示されているか①重要性、②完全性、③対応性の3原則の見地から見るもの。詳細は <http://www.accountability21.net/default.asp> をご参照ください。

## 編集後記

今回の報告書は、多くの方々にSGホールディングスグループを知っていただけるよう、従来どおり解りやすい表現を心掛け、親しみやすい報告書にすることに努めました。また、より一層企業の社会的責任の遂行に取り組む姿勢を社内に伝え、更なる意識の高揚を図るためのツールとなることを期待しています。

まだまだグループ全体の情報やデータが不足しているため、SGホールディングスグループ全体が理解できないとお感じになるかもしれません。当グループはこれからも積極的な取り組みを行い、社会に信頼される企業グループとなれるよう、努めて参ります。

最後になりましたが、この報告書がステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションツールとして活かされますよう、皆さまからのご意見・ご感想を頂戴し、今後の取り組みへの参考にさせていただきたいと考えております。

この報告書に関するお問い合わせは下記にお願いいたします。

〒601-8104 京都市南区上烏羽角田町68番地

**SGホールディングス株式会社**  
**CSR環境担当**

TEL 075-671-8600  
<http://www.sg-hldgs.co.jp/>

タイトル 環境・社会報告書2007

発行日 2007年6月

次回発行予定 2008年6月

印刷 佐川印刷株式会社

本報告書は上記インターネットホームページでもご覧いただくことができます。



- この環境・社会報告書は森林保全につながるFSC認証紙を使用しています。
- アメリカ大豆協会認定の大豆油インキで印刷しています。

